

音威子府村 人口ビジョン



音威子府村公式キャラクター おとっきー

森と水と人が織りなす匠の里・おといねっふ

目 次

巻頭1

巻頭2

I 人口ビジョンについて

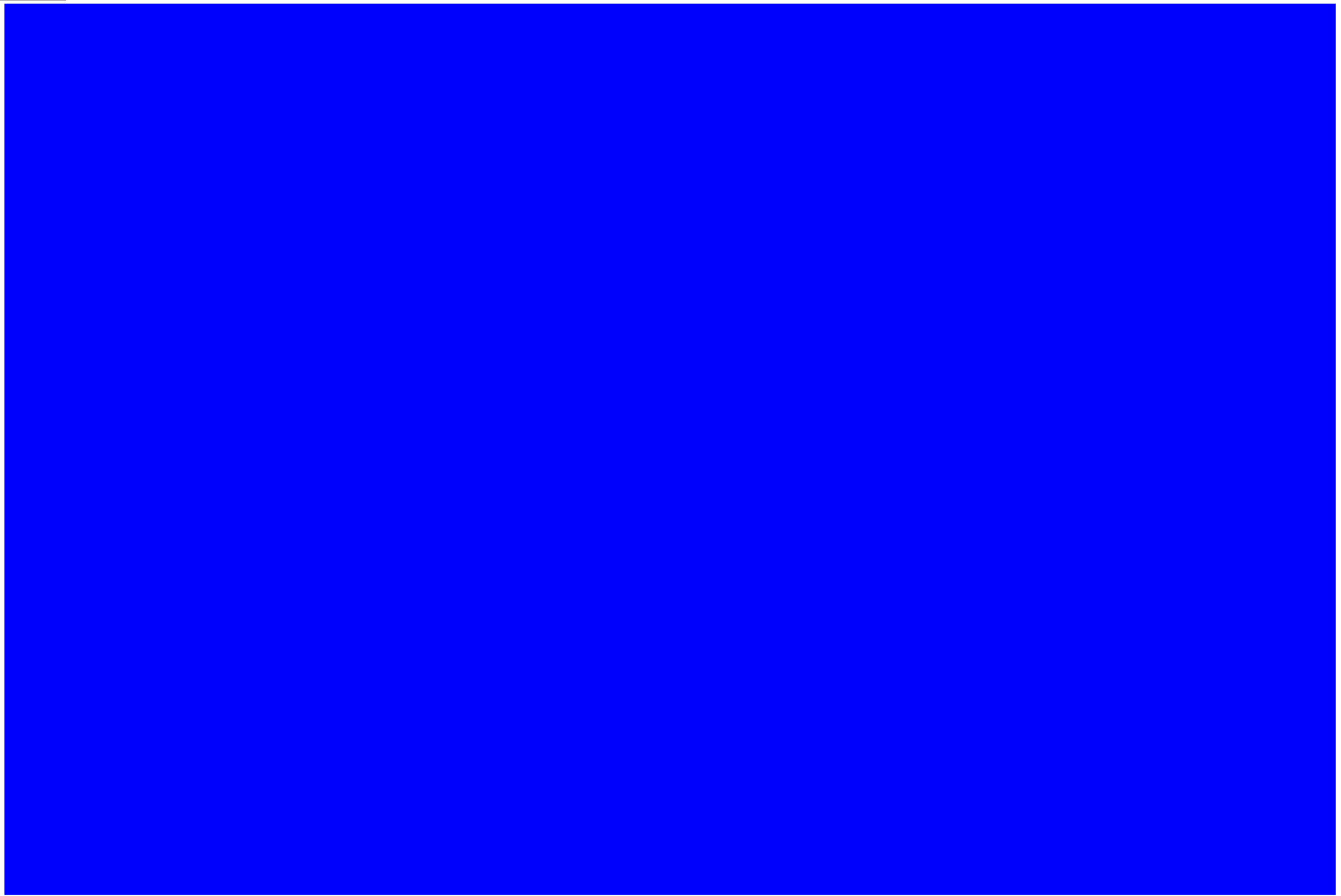
策定の趣旨	1
音威子府村人口ビジョン（仮称）の位置づけ	1
対象期間	1
国の「長期ビジョン」	2
「北海道人口ビジョン」	2
国の人口推移と時代のトレンド	3

II 音威子府村の人口動向の現状と見通し

1 現状分析	4
人口動向分析についての基本的考え方	4
(1) 人口動向	5
(2) 人口動態	7
(3) 要因別分析	8
(4) その他の分析	12
2 将来人口の見通し	19
人口推計の基本的な考え方	19
趨勢人口と戦略人口	19
2015年の人口と音威子府村の特殊性を踏まえた人口推計の検討	20
(1) 人口推計のシミュレーション別概要	21
(2) シミュレーション結果	25
3 音威子府村における人口動向・構造の特性と課題	32

III 人口の将来展望

1 将来を見据えた人口問題に対する取り組みの考え方	36
2 めざすべき将来の戦略人口と展望	36
(1) 戦略人口	36
(2) 戦略人口に基づく人口構造の展望	38
(3) まとめとしての将来展望	43



村内の主な出来事（平成）

平成元年（1989年）	彫刻家砂澤ビッキ死去 
平成2年（1990年）	天北線廃止⇒音威子府駅の業務縮小⇒代替バスの運行開始 天塩川温泉リニューアルオープン 山村都市交流センター「木遊館」開館 音威子府交通ターミナルが完成 （JR・宗谷バス・天北線資料室・駅そば常盤軒の複合施設）
平成3年（1991年）	咲来小学校山村留学制度スタート
平成4年（1992年）	単身者専用住宅ドングリ1号完成 農畜産物加工施設完成
平成5年（1993年）	高齢者生活福祉センター完成 青少年宿泊研修施設トムテ完成 第3期総合計画スタート 道の駅おといねっぶ開駅 
平成6年（1994年）	音威子府小学校開校80周年記念式典 単身者専用住宅ドングリ2号完成 地域交流センター完成 開村90周年記念式典 おといねっぶ高等学校校舎増築・体育館新築 旧国鉄アパート購入
平成7年（1995年）	美深道有林管理センター音威子府支署閉鎖 音威子府小学校校舎新築

平成8年（1996年）	酪農ヘルパー組合設立 咲来小学校開校90周年記念式典 音威子府小学校体育館完成 岐阜県上之保村（現関市）と姉妹村盟約調印
平成9年（1997年）	音威子府中学校開校50周年記念式典 音威子府有線テレビ導入 幼児センター完成
平成10年（1998年）	常盤農協と美深農協合併 天塩川温泉増築
平成11年（1999年）	北星団地造成分譲 農業集落排水事業供用開始 村立診療所完成、保健福祉センター併設 おといねっぶ高等学校開校50周年記念式典
平成12年（2000年）	
平成13年（2001年）	緊急内排水機場完成
平成14年（2002年）	高橋昭五郎彫刻の館オープン エコミュージアムおさしまセンターオープン
平成15年（2003年）	 音威子府小学校開校90周年記念式典
平成16年（2004年）	開村100周年記念式典 北海道命名の地「天塩川」北海道遺産選定
平成17年（2005年）	咲来郵便局廃止
平成18年（2006年）	咲来小学校開校100周年記念式典
平成25年（2013年）	村名改称50周年 富士見団地新築 おといねっぶ高等学校女子寮増築

1. 人口ビジョンについて

策定の趣旨

- 我が国では、2008年の1億2,808万人をピークに人口減少局面に入っており、今後も年少人口の減少と老年人口の増加を伴いながら、2050年に9,700万人程度、2100年には5,000万人未満まで減少するという推計が出されています。また、地域間経済格差等が、若い世代の地方から東京圏への流出、ひいては東京圏一極集中を招いています。
- こうした背景に対応するため、「まち・ひと・しごと創生法」と「地域再生法の一部を改正する法律」が成立しました。この「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国では「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定、平成26年12月27日に閣議決定されました。
- 音威子府村においても、人口減少に伴う地域課題に対応するために、今後村がめざすべき方向性を示す「音威子府村人口ビジョン（仮称）」を策定します。

音威子府村人口ビジョン（仮称）の位置づけ

- 音威子府村人口ビジョン（仮称）は、人口の現状や人口の推計を分析することで、村の人口動向の特性と課題を把握し、目標とする将来人口と、将来人口に基づく将来の展望を提示するものです。また、同時に策定する「音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）」の目標設定や、必要な施策・事業を検討する上で、重要な基礎資料となります。

対象期間

- 音威子府村人口ビジョン（仮称）の対象期間は、国の「長期ビジョン」と同じく、2015年から2060年までとします。

国の「長期ビジョン」

○国の「長期ビジョン」は以下のとおりです。



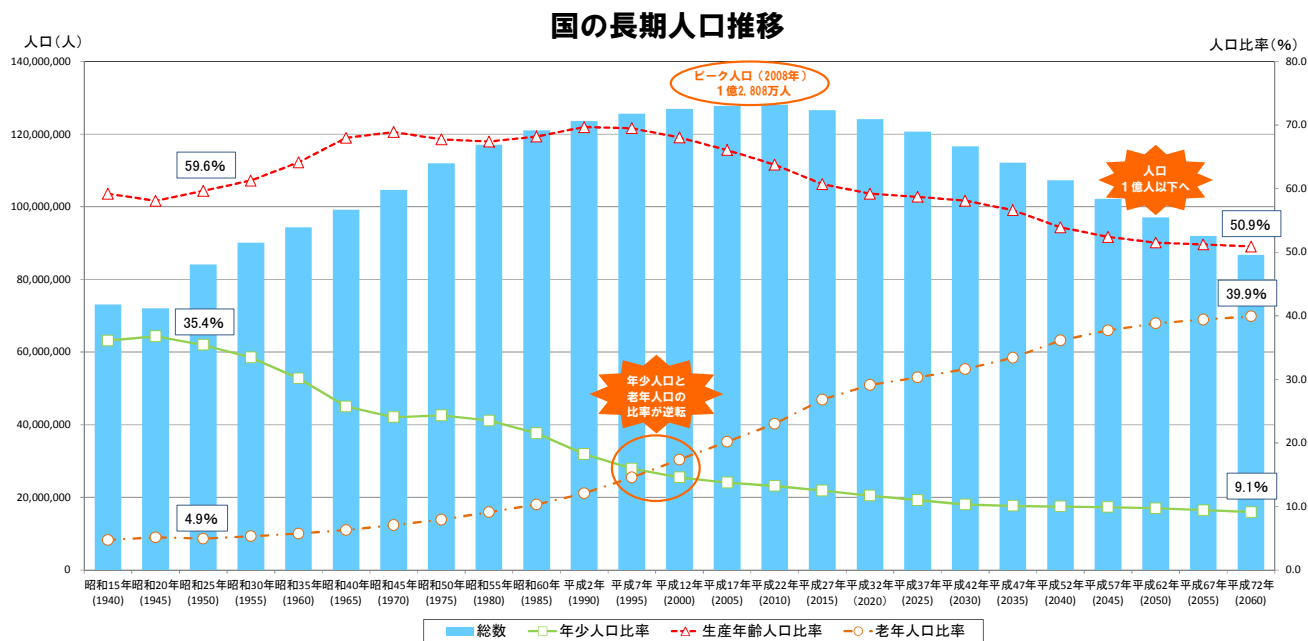
「北海道人口ビジョン」

○「北海道人口ビジョン」は以下のとおりです。



国の人口推移と時代のトレンド

○我が国の人口は、1950 年以降、一貫して増加していましたが、2008 年をピークに減少に転じており、2060 年には 8,674 万人程度にまで減少すると推計されています。これは高度経済成長期以前の 1950 年の人口と概ね同程度ですが、年齢構成を比較すると、年少人口（0～14 歳）と生産年齢人口（15～64 歳）の割合が小さく、老年人口（65 歳以上）の割合が大きくなっており、年少人口数と老年人口数がほぼ逆転しています。



時代のトレンド

人口の減少

2014 年の総人口「1 億 2,708 万 3 千人」
※2008 年（ピーク人口）から 100 万人程度減少

全国的な低出生率と大都市の超低出生率

2014 年の合計特殊出生率「1.42（東京都 1.15）」
※8 年連続の自然減少

晩婚化の進行

1975 年の平均初婚年齢「夫 27.0 歳、妻 24.7 歳」
→2013 年の平均初婚年齢「夫 30.9 歳、妻 29.3 歳」

人口の東京一極集中

2013 年の地方圏転出超過「89,786 人」、東京圏転入超過「96,524 人」
※18 年連続の東京圏転入超過

移動の縮小

1973 年の移動「4,234,228 人」→1993 年の移動「3,079,080 人」
→2013 年の移動「2,301,895 人」
※20 年で 25.2%、40 年で 45.6%の縮小

高齢化の進行

2014 年の 65 歳以上人口「3,300 万人」
※高齢化率 26.0%

(人口推計(平成 26 年 10 月 1 日)結果の概要、人口動態統計、人口移動報告)

II. 音威子府村の人口動向の現状と見通し

1. 現状分析

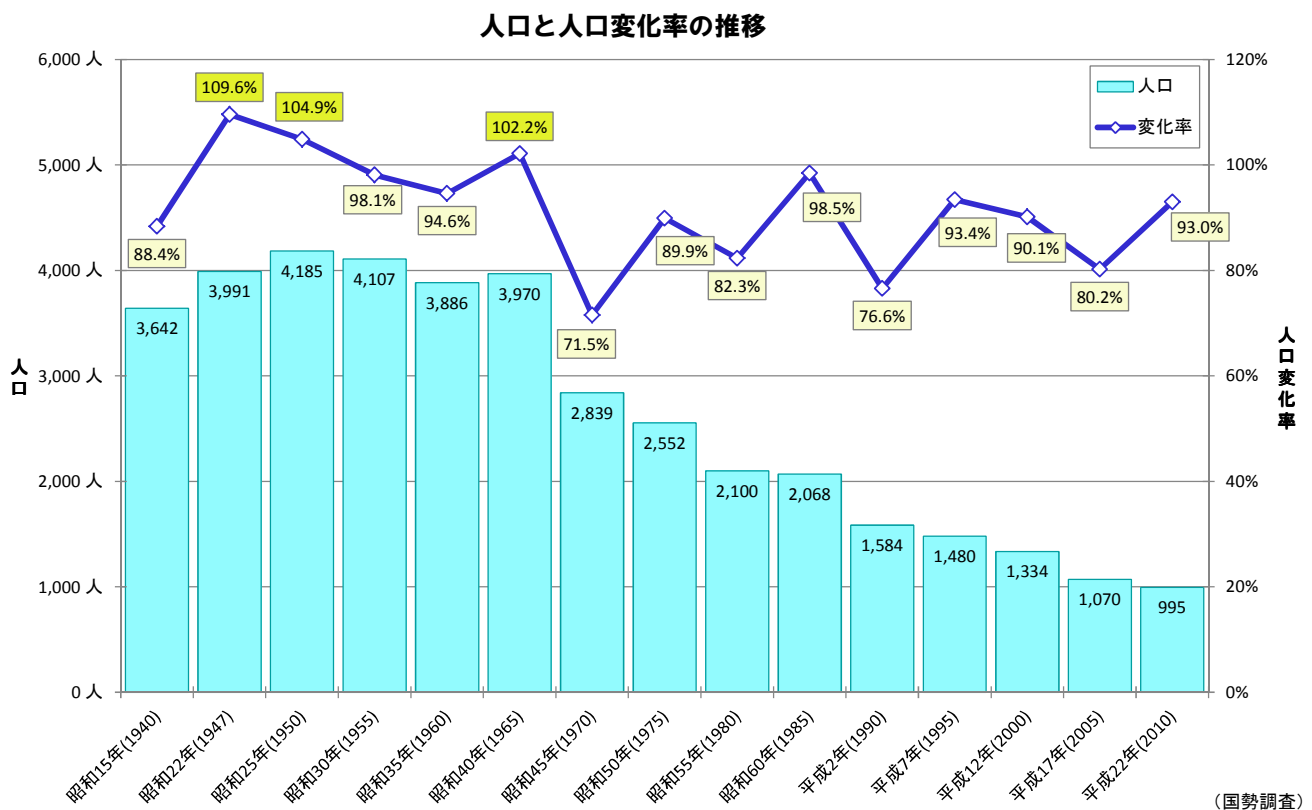
人口動向分析についての基本的考え方

○過去から現在に至る人口の推移を把握し、その背景を分析することにより、講ずべき施策の検討材料を得ることを目的として、時系列による人口動向や年齢階級別の人口移動分析を行います。

[総人口の推移]

○音威子府村では、他の多くの自治体と同様、戦後の復員やベビーブームに伴って昭和 22 年以降人口が大きく増加し、昭和 25 年には 4,185 人と人口のピークになっています。その後、高度経済成長期前半の昭和 30 年～昭和 40 年までは、天北線と宗谷本線を繋ぐ鉄道のまちとして発展し、人口 4,000 人前後で推移していますが、昭和 45 年には人口が大きく減少しています。これは、国道 40 号建設工事の作業員が昭和 44 年に道路が開通したことを受け村から撤退したことや、高度経済成長の加速に伴う首都圏等他地域への人口流出によるものと考えられます。

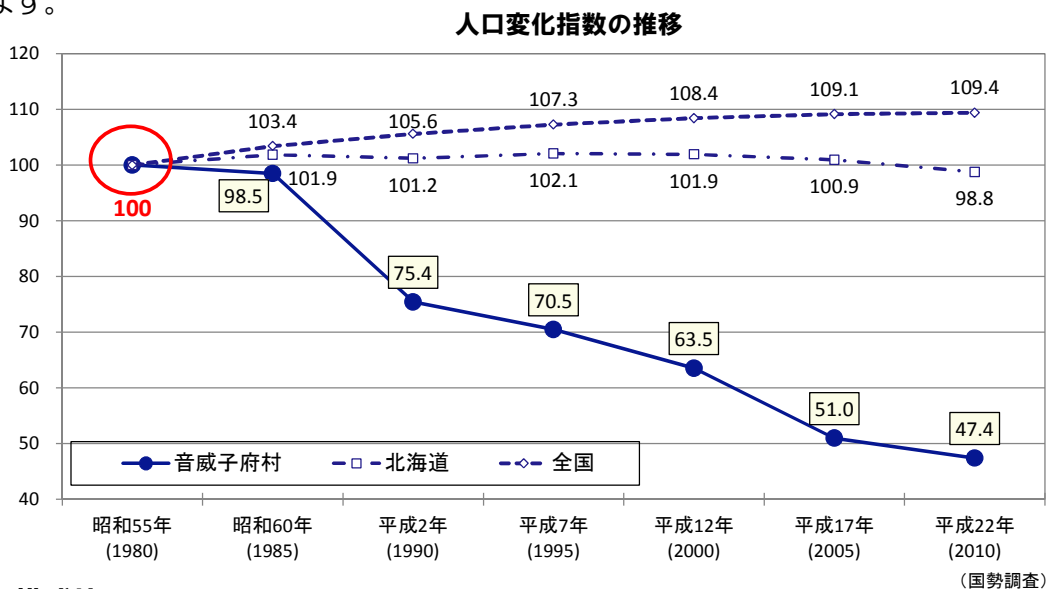
○その後も、国鉄合理化に伴う人員削減や、平成元年の天北線の廃止等の影響により人口減少は進み、平成 22 年には 1,000 人を割り込み 995 人となっています。



(1) 人口動向

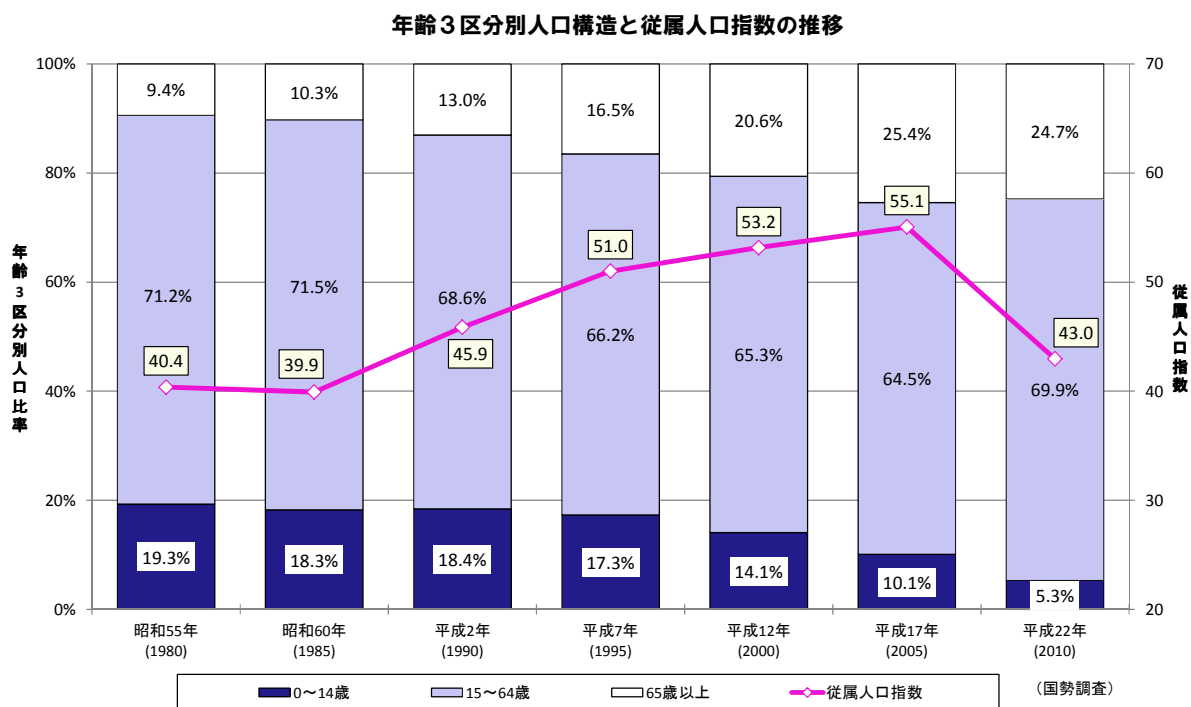
①人口変化指数の推移

昭和55年の人口を100とした場合の変化指数の推移を全国・北海道・音威子府村で比較すると、全国は平成22年、北海道は平成7年がピークとなっているのに対し、音威子府村は昭和55年以降、一貫した減少傾向で推移しており、平成22年には47.4と半数以下になっています。



②人口構成比

年齢3区分別の人口構造についてみると、老年人口が昭和55年の9.4%から平成17年には24.7%と30年間で15.3ポイント増加している一方で、年少人口は19.3%から5.3%と14.0ポイント減少しており、少子高齢化が進行していることがわかります。従属人口指数は、年少人口の減少により、平成17年の55.1から平成22年には43.0となっています。



従属人口指数とは、生産年齢人口（15～64歳）に対する年少人口（0～14歳）、老年人口（65歳以上）の合計の比率で、働き手である生産年齢人口100人が年少人口と老年人口を何人支えているかを示すものです。

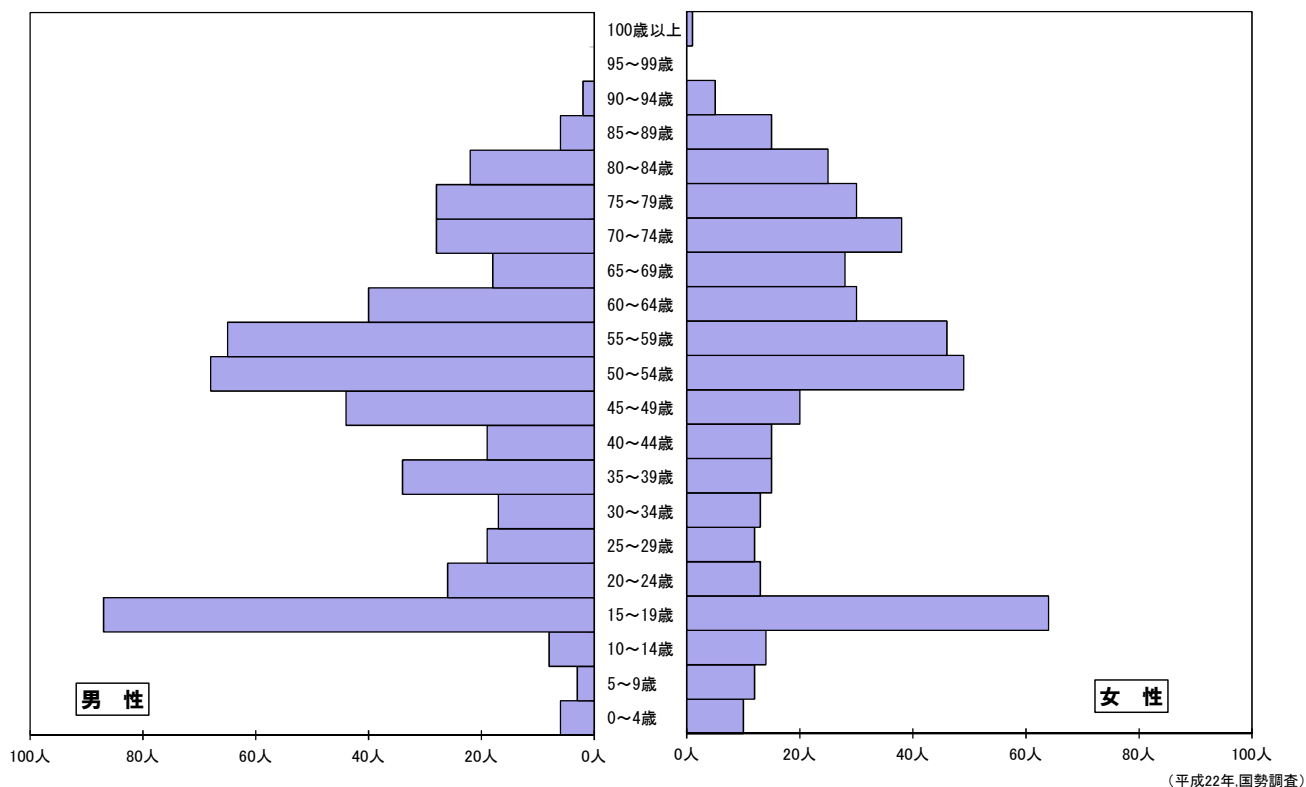
(人)

		昭和55年 (1980)	昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	
人 口	年少人口	0～4歳	115	139	95	55	48	28	16
		5～9歳	168	101	117	94	50	36	15
		10～14歳	123	138	80	107	90	44	22
		計	406	378	292	256	188	108	53
	生産年齢人口	15～19歳	170	169	173	147	151	145	151
		20～24歳	139	87	29	42	43	32	39
		25～29歳	173	176	79	52	66	31	31
		30～34歳	180	195	126	79	61	53	30
		35～39歳	132	169	128	125	60	37	49
		40～44歳	144	115	110	123	122	53	34
		45～49歳	166	145	92	119	113	109	64
		50～64歳	392	422	349	293	255	230	298
	計	1,496	1,478	1,086	980	871	690	696	
	老年人口	65～74歳	131	129	136	159	174	146	112
		75歳以上	67	83	70	85	101	126	134
計		198	212	206	244	275	272	246	
年齢不詳		0	0	0	0	0	0	0	
総人口		2,100	2,068	1,584	1,480	1,334	1,070	995	
構成比	年少人口	0～14歳	19.3%	18.3%	18.4%	17.3%	14.1%	10.1%	5.3%
	生産年齢人口	15～64歳	71.2%	71.5%	68.6%	66.2%	65.3%	64.5%	69.9%
	老年人口	65歳以上	9.4%	10.3%	13.0%	16.5%	20.6%	25.4%	24.7%

(国勢調査)

平成22年の音威子府村の5歳階級別の人口構造をみると、全国的には若年層の割合が低く高齢層の割合の高い「つぼ型」になる傾向にある中、音威子府村では、男女ともに北海道おといねっぴ美術工芸高等学校の生徒を含む“15～19歳”の人口の割合が高いことが特徴となっています。

音威子府村の5歳階級別人口構造

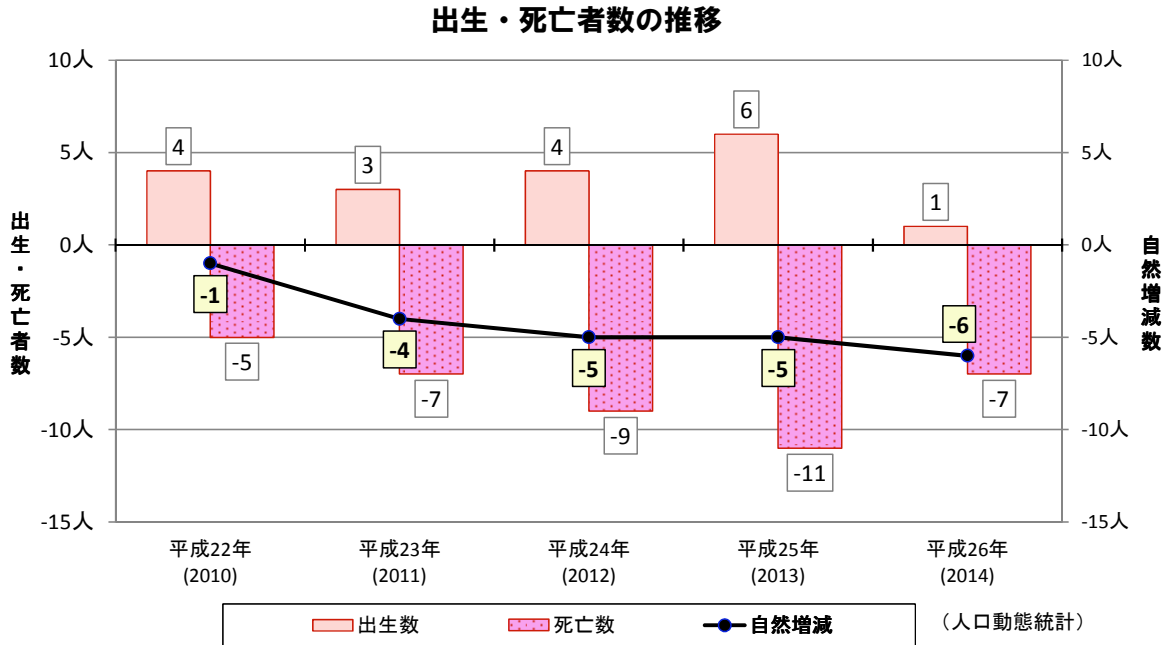


(平成22年,国勢調査)

(2) 人口動態

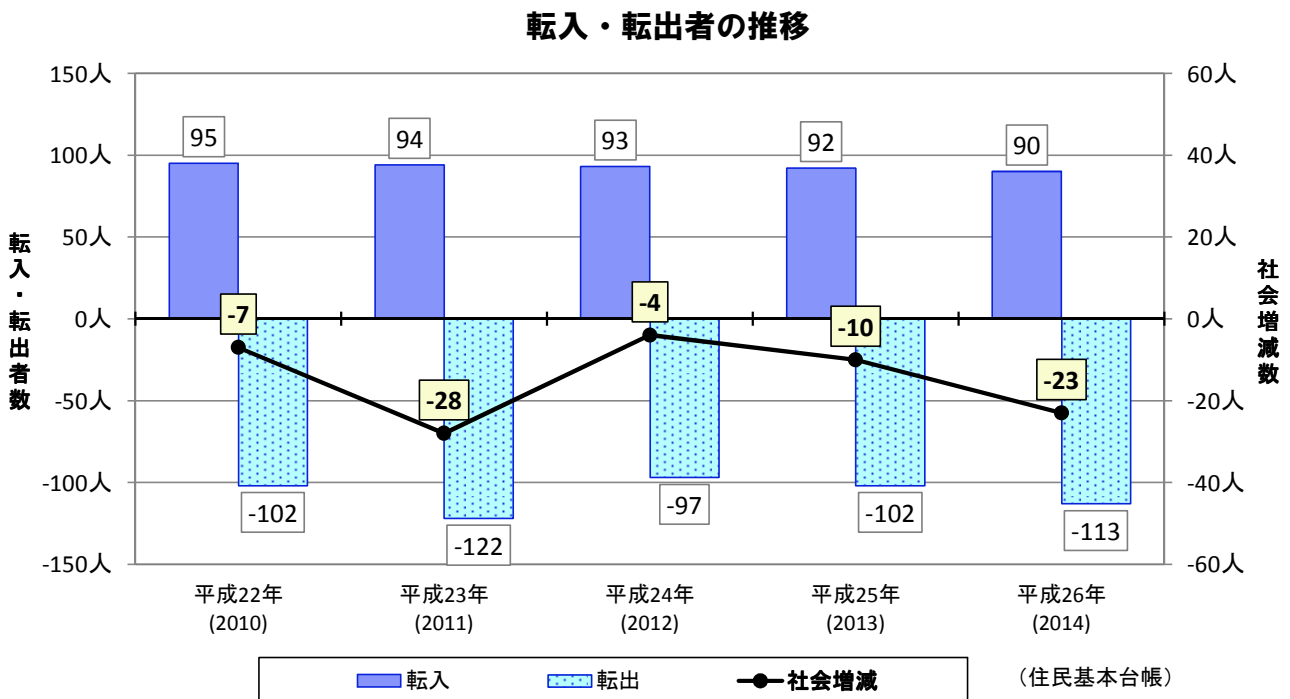
① 自然動態

平成 22～26 年の5年間の出生・死亡者数をみると、多少の振幅はあるものの、出生・死亡者数ともにほぼ横ばいで推移しており、すべての年で、死亡者数が出生数を上回っています。



② 社会動態

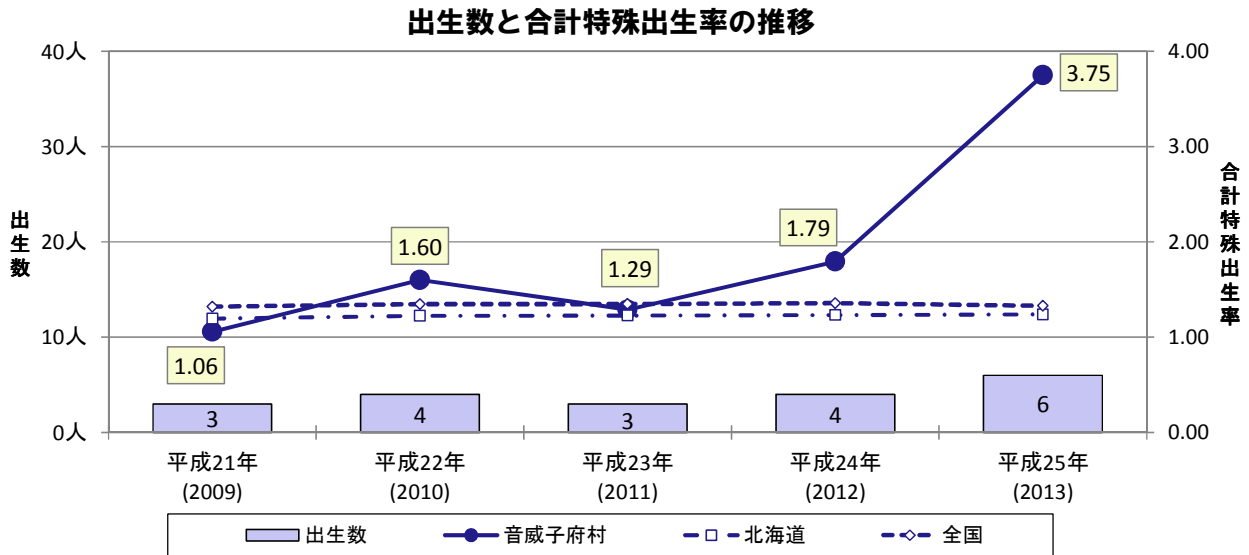
平成 22～26 年の5年間の転入・転出者数をみると、出生・死亡者数と同様に、多少の振幅はあるものの、転入・転出ともにほぼ横ばいで推移しています。また、すべての年で転入者数を転出者数が上回っています。



(3) 要因別分析

① 出生の状況

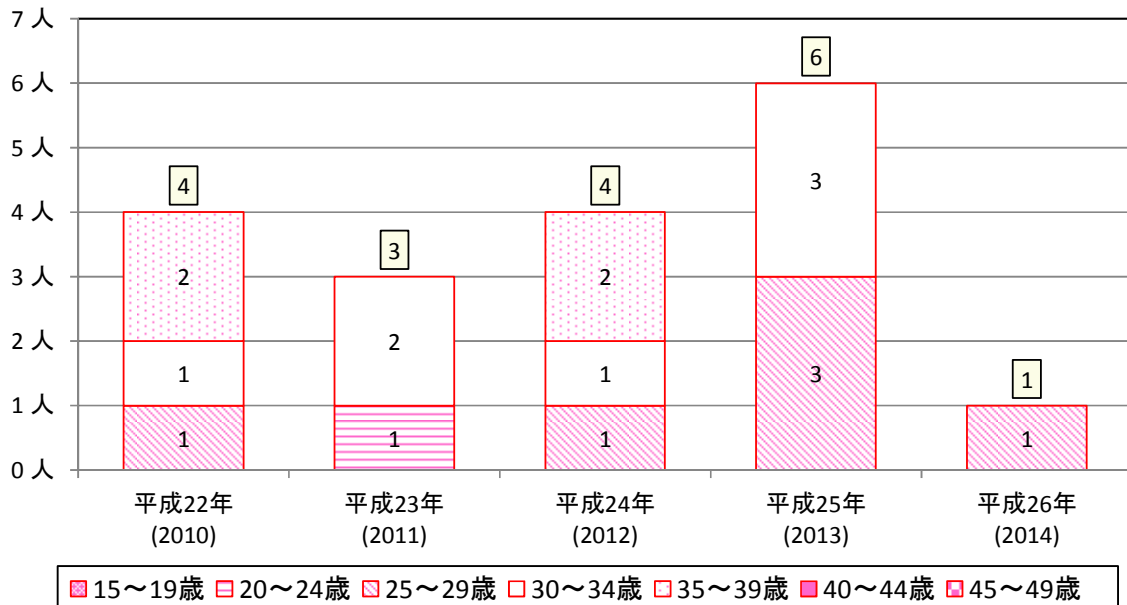
平成 21～25 年の5年間の合計特殊出生率の推移をみると、全国・北海道はほぼ横ばいで推移していますが、音威子府村は平成 21、23 年を除き全国・北海道に比べ高い数値で推移しています。なお、出生数がほぼ横ばいであるにも関わらず、平成 25 年の合計特殊出生率が極端に高いのは、30～34 歳の女性人口6人のうち3人が出産したことが原因です。



※出生数(人口動態調査)、女性人口(住民基本台帳)より算出

合計特殊出生率は、人口動態統計による母親の年齢5歳階級別出生数を住民基本台帳(3月31日付)による15～49歳の5歳階級別の女性人口で除した値の合計

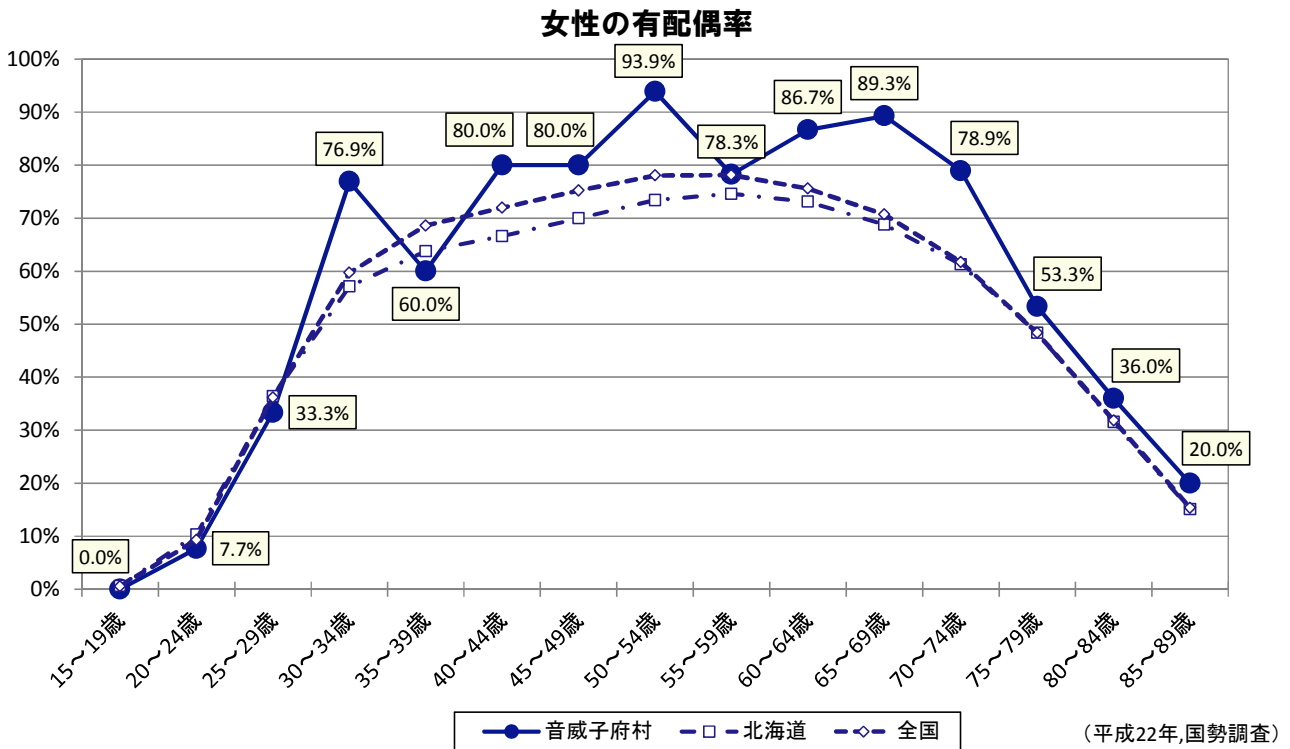
母親の年齢別出生数の推移をみると、平成 25・26 年を除いて、30 代の母親の出生数が 20 代の母親の出生数を上回っています。



(人口動態統計)

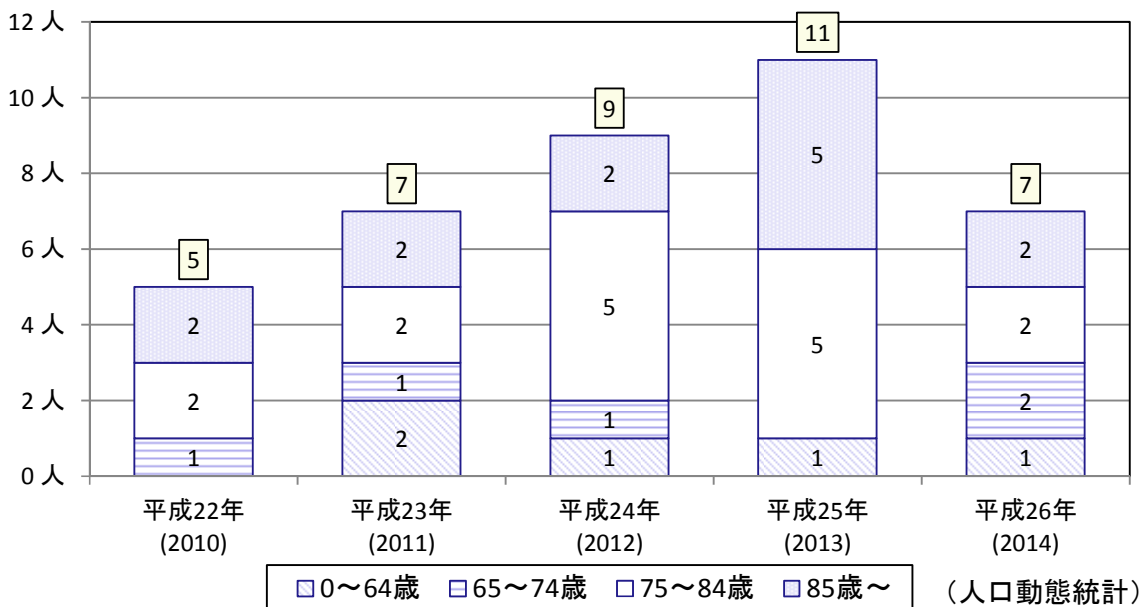
平成 22 年の女性の有配偶率を全国・北海道・音威子府村で比較すると、“30～34 歳” “40 歳以上” の年代で、全国・北海道に比べて音威子府村の有配偶率が高くなっています。

なお、20 代の女性の有配偶率の低さは社会的な晩婚化、80 歳以上の女性の有配偶率の低さは配偶者との死別が原因と考えられます。



②死亡の状況

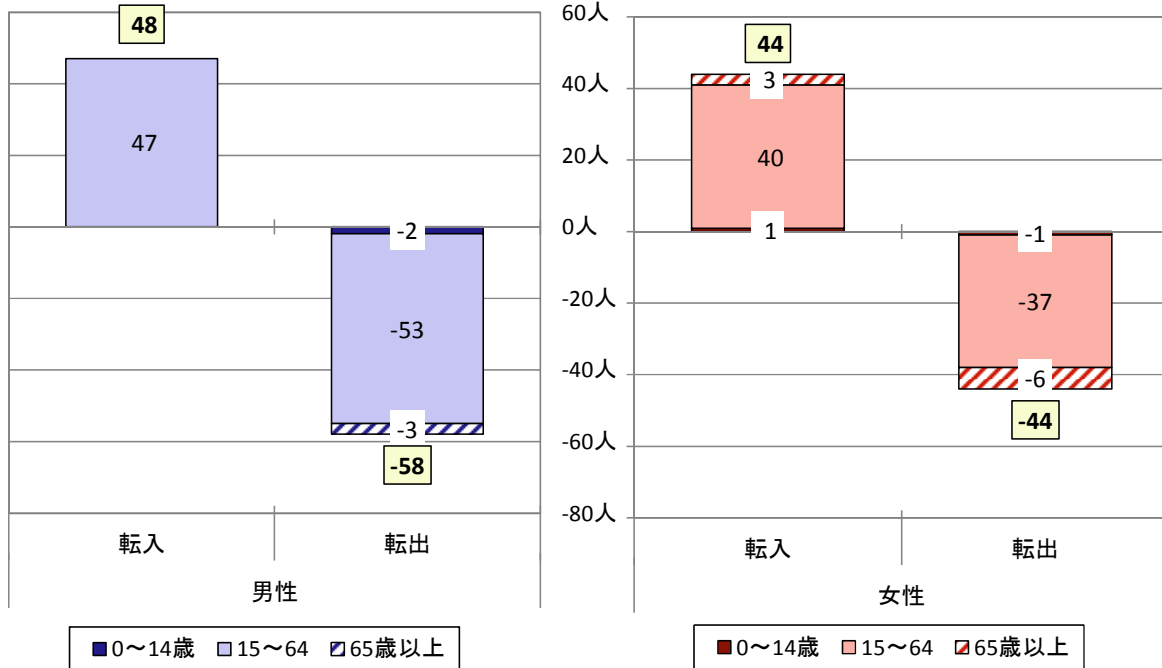
平成 22～26 年の5年間の死亡者数をみると、各年 10 人前後で推移しており、年齢別では 75 歳以上が占める割合が半数以上となっています。



③ 転入・転出の状況

平成 25 年の転入・転出の状況を性別・年齢3区分別にみると、男女ともに“15～64 歳”の移動が約8割を占めています。そのうち、男性は転出が転入を上回っていますが、女性は転入が転出を上回っています。

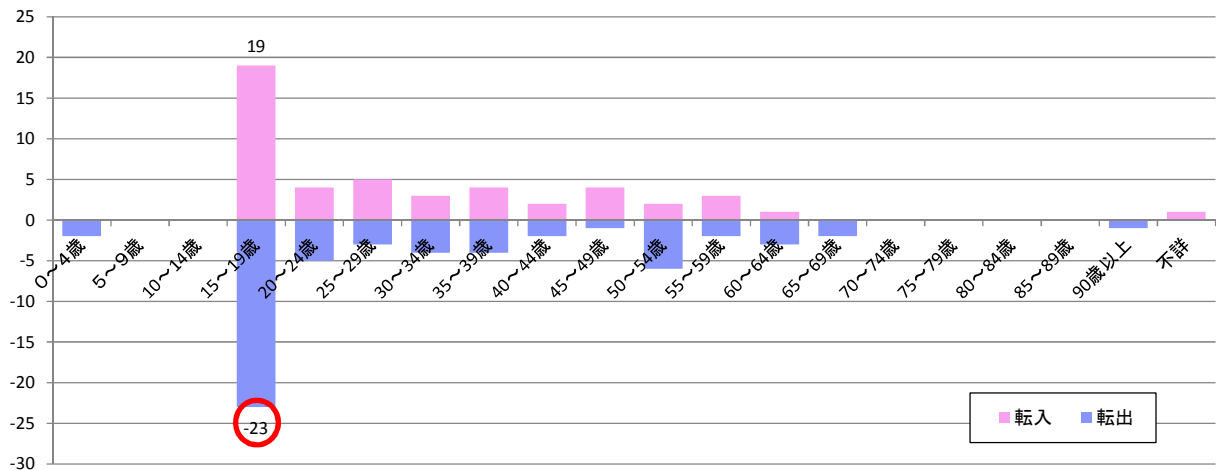
性別・年齢3区分別の転入・転出の状況



(平成25年,住民基本台帳)

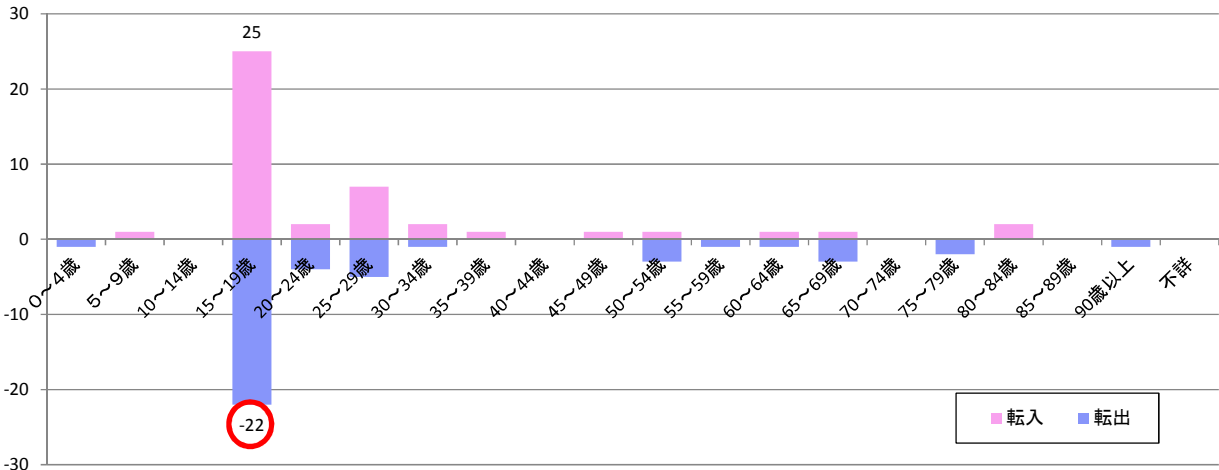
また、平成 25 年の転入・転出の差である純移動数について、性別・年齢階級別にみると、男女ともに“15～19 歳”の移動が最も多くなっています。転入・転出数が拮抗していることから、“おといねっぴ美術工芸高等学校”の入学により転入した生徒の多くが、卒業により転出していることがわかります。

年齢階級別 転入・転出の状況(男性)



(平成25年,住民基本台帳)

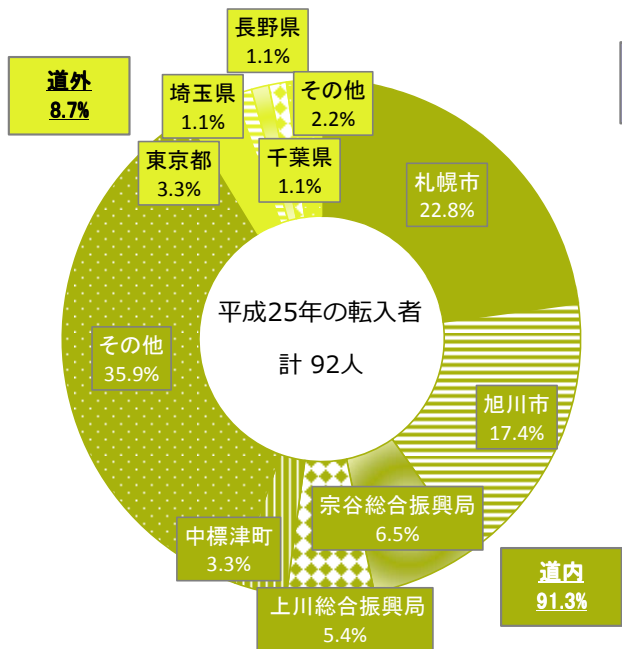
年齢階級別 転入・転出の状況(女性)



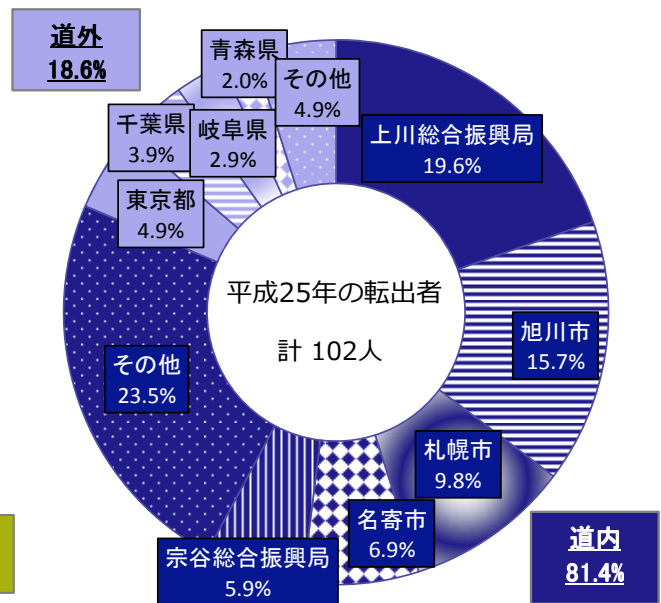
(平成25年,住民基本台帳)

平成 25 年の転入・転出の状況を居住地別にみると、転入は道内が 91.3%、転出は道内が 81.4%となり、音威子府村の移動は道内に集中していることがわかります。転入は札幌市、転出は上川総合振興局区域（剣淵町、東神楽町、愛別町等）が最も多く、それぞれ全体の約2割となっています。

転入の状況



転出の状況



(平成 25,住民基本台帳)

(4) その他の分析

①通勤・通学の状況

平成22年の村内常住の就業者・通学者651人の従業・通学地についてみると、村内に通勤・通学している人が593人(91.1%)、次いで名寄市41人(6.3%)、中川町5人(0.8%)となっています。

他市町村在住の就業者・通学者86人についてみると、美深町から通勤・通学している人が26人、次いで中川町が20人となっています。

常住地及び従業通学地別の就業者・通学者数

(人)

		人口	常住就業者・ 通学者数 (従業通学地不詳を 含まない)	従業通学地										
				道内										
				札幌市	函館市	旭川市	名寄市	松前町	美深町	音威子府村	中川町	浜頓別町	枝幸町	
常住地	道内	札幌市	1,913,545	890,773	822,707	227	562	75	8	3	3	2	2	12
		函館市	279,127	129,503	185	119,837	7	7	20	1	2	0	0	0
		旭川市	347,095	164,697	611	20	155,293	138	0	28	3	14	10	16
		名寄市	30,591	16,159	10	1	65	15,231	0	174	9	7	1	2
		松前町	8,748	3,939	11	31	1	0	3,521	0	3	1	0	0
		美深町	5,178	2,625	6	0	9	171	0	2,375	26	6	0	3
		音威子府村	995	651	0	0	0	41	0	10	593	5	1	1
		中川町	1,907	1,037	0	0	2	9	0	3	20	981	1	0
		浜頓別町	4,168	2,227	0	0	0	0	0	0	1	1	2,055	24
		枝幸町	9,125	5,119	2	0	0	2	0	2	5	2	71	4,968

(平成22年,国勢調査)

常住地及び従業通学地別の就業者・通学者率

		人口	常住就業者・ 通学者数 (従業通学地不詳を 含まない)	従業通学地										
				道内										
				札幌市	函館市	旭川市	名寄市	松前町	美深町	音威子府村	中川町	浜頓別町	枝幸町	
常住地	道内	札幌市	1,913,545	890,773	92.4%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		函館市	279,127	129,503	0.1%	92.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		旭川市	347,095	164,697	0.4%	0.0%	94.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		名寄市	30,591	16,159	0.1%	0.0%	0.4%	94.3%	0.0%	1.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
		松前町	8,748	3,939	0.3%	0.8%	0.0%	0.0%	89.4%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
		美深町	5,178	2,625	0.2%	0.0%	0.3%	6.5%	0.0%	90.5%	1.0%	0.2%	0.0%	0.1%
		音威子府村	995	651	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	1.5%	91.1%	0.8%	0.2%	0.2%
		中川町	1,907	1,037	0.0%	0.0%	0.2%	0.9%	0.0%	0.3%	1.9%	94.6%	0.1%	0.0%
		浜頓別町	4,168	2,227	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	92.3%	1.1%
		枝幸町	9,125	5,119	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	1.4%	97.1%

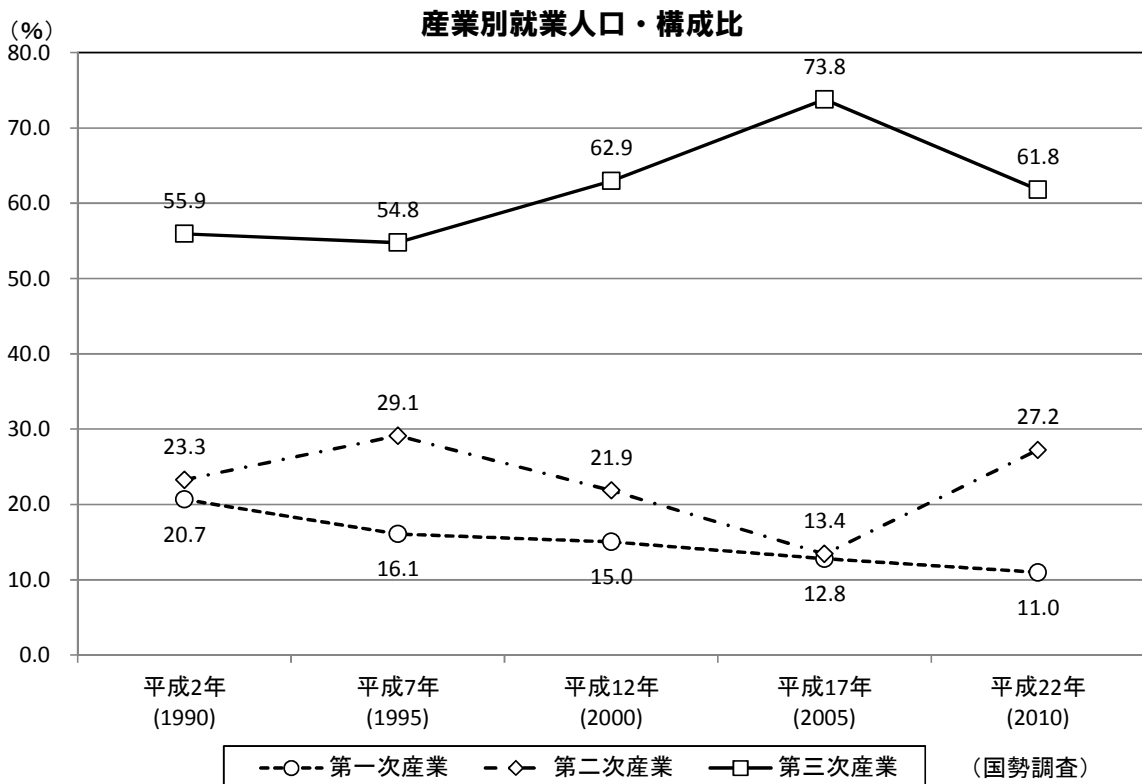
(平成22年,国勢調査)

②就業構造の状況

<産業別就業人口>

総就業者数は平成2年の774人から、平成22年には492人と、20年間で282人の減少となっています。

産業別就業人口の構成比をみると、第一次産業は平成2年以降一貫して減少傾向で推移していますが、第二次産業は増加と減少を繰り返しながら推移しています。また、第三次産業は平成7年から平成17年までは増加傾向で推移していましたが、平成22年には減少に転じています。

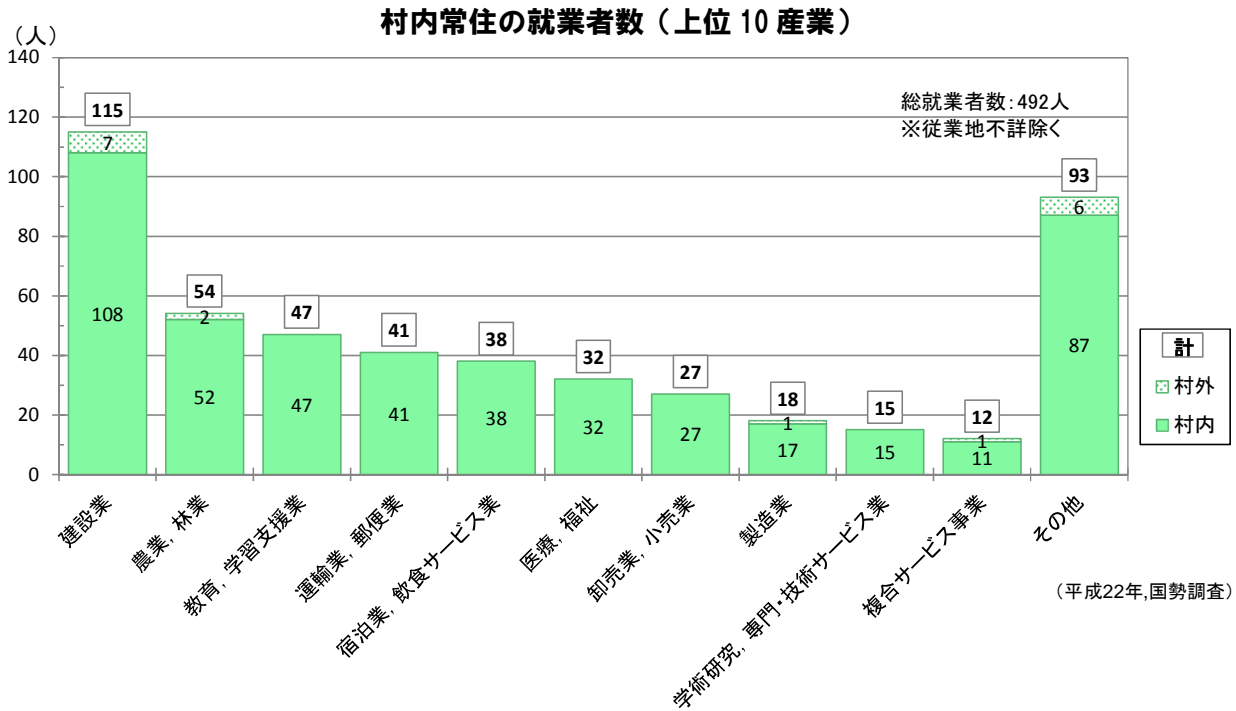


産業分類	平成2年		平成7年		平成12年		平成17年		平成22年	
	就業者	構成比	就業者	構成比	就業者	構成比	就業者	構成比	就業者	構成比
第一次産業	160	20.7%	121	16.1%	97	15.0%	61	12.8%	54	11.0%
農業	148	19.1%	113	15.0%	96	14.9%	58	12.2%	50	10.2%
林業	12	1.6%	8	1.1%	1	0.2%	3	0.6%	4	0.8%
漁業	0	0%	0	0%	0	0%	0	0.0%	0	0.0%
第二次産業	180	23.3%	219	29.1%	141	21.9%	64	13.4%	134	27.2%
鉱業	2	0.3%	1	0.1%	0	0%	0	0.0%	1	0.2%
建設業	129	16.7%	191	25.4%	128	19.8%	54	11.3%	115	23.4%
製造業	49	6.3%	27	3.6%	13	2.0%	10	2.1%	18	3.7%
第三次産業	433	55.9%	412	54.8%	406	62.9%	352	73.8%	304	61.8%
電気・ガス・熱供給・水道業	1	0.1%	-	-	2	0.3%	2	0.4%	2	0.4%
運輸・通信業	70	9.0%	51	6.8%	49	7.6%	25	5.2%	41	8.3%
卸売・小売業、飲食店	92	11.9%	70	9.3%	59	9.1%	81	17.0%	65	13.2%
金融・保険業	9	1.2%	8	1.1%	9	1.4%	8	1.7%	9	1.8%
不動産業	0	0%	0	0%	0	0%	0	0.0%	1	0.2%
サービス業	198	25.6%	216	28.7%	226	35.0%	179	37.5%	128	26.0%
公務(他に分類されないもの)	63	8.1%	67	8.9%	61	9.5%	57	11.9%	58	11.8%
分類不能	1	0.1%	0	0%	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%
総数	774	100%	752	100%	645	100%	477	100%	492	100%

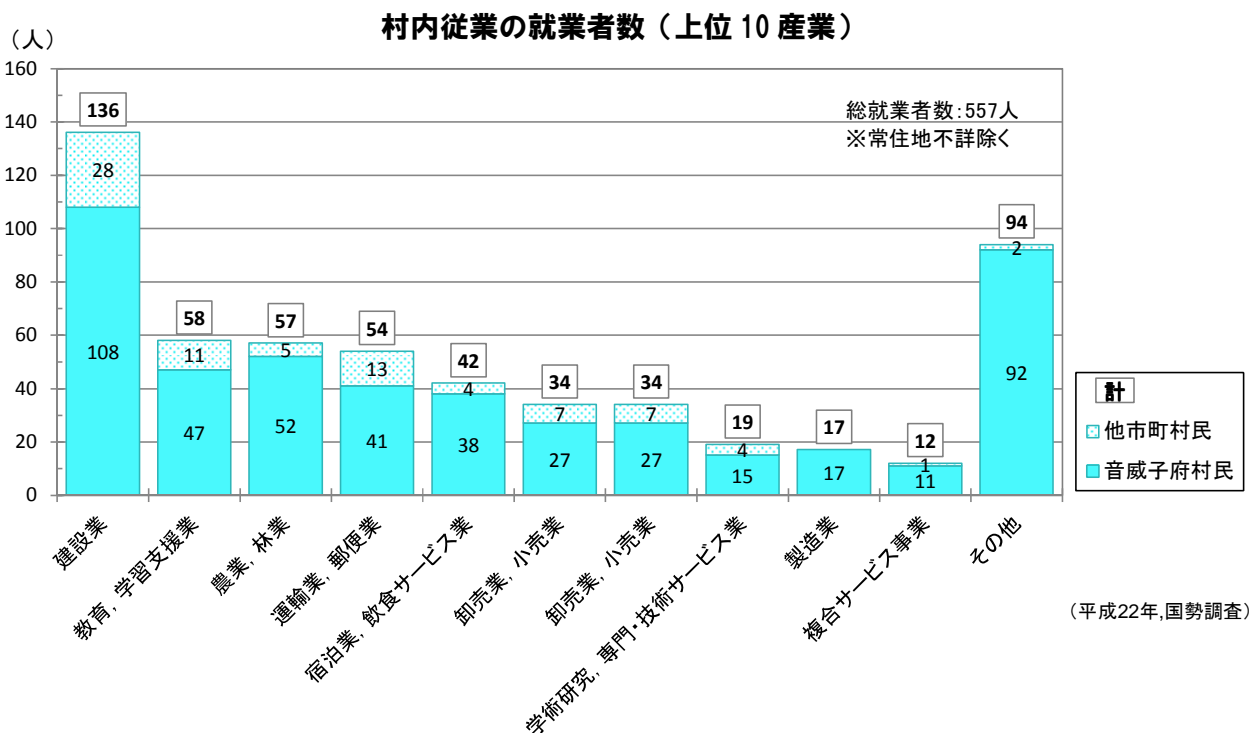
(国勢調査)

<村民の就業状況と村内従業の就業者>

平成22年の村内常住の就業者について産業分類別にみると、建設業が115人と最も多く、そのうち村内の就業者は108人(93.9%)となっています。次いで、農業・林業が54人、教育・学習支援業47人となっています。村内常住の就業者のほとんどは、村内で就業していることがわかります。



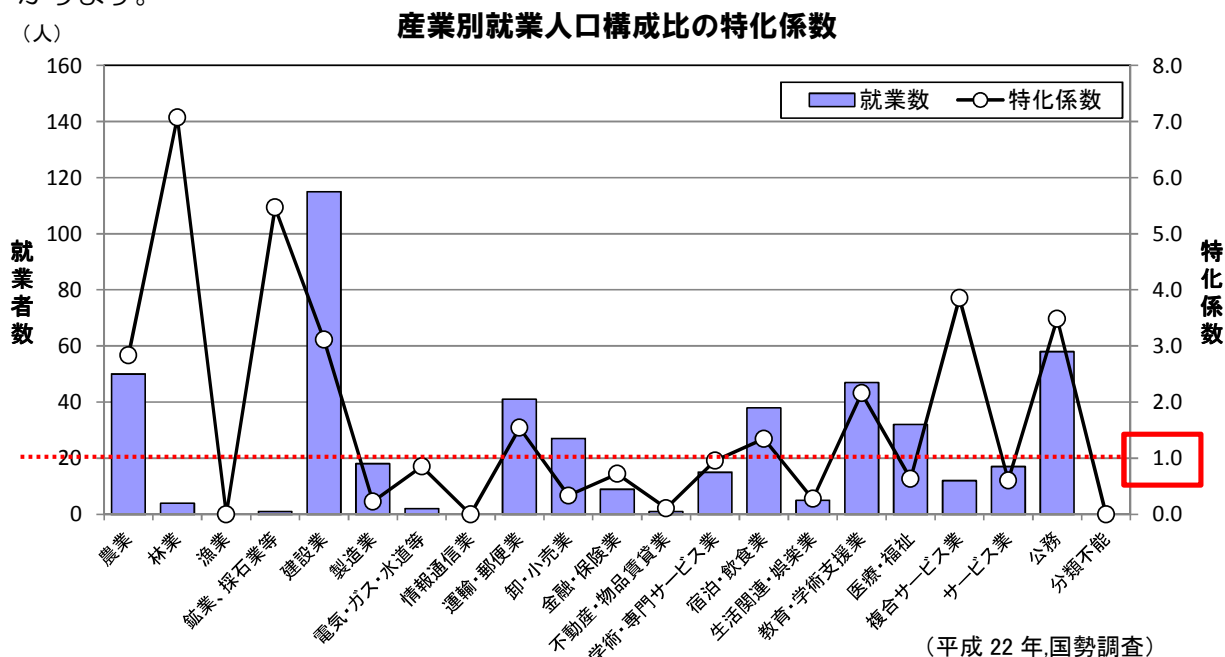
また、平成22年村内従業の就業者について産業分類別にみると、建設業が136人と最も多く、そのうち他市町村の就業者は28人(20.6%)となっています。次いで、教育・学習支援業58人、農業・林業57人となっています。なお、すべての産業で、村民の就業者の割合が他市町村民に比べ多くなっています。



<産業特化係数>

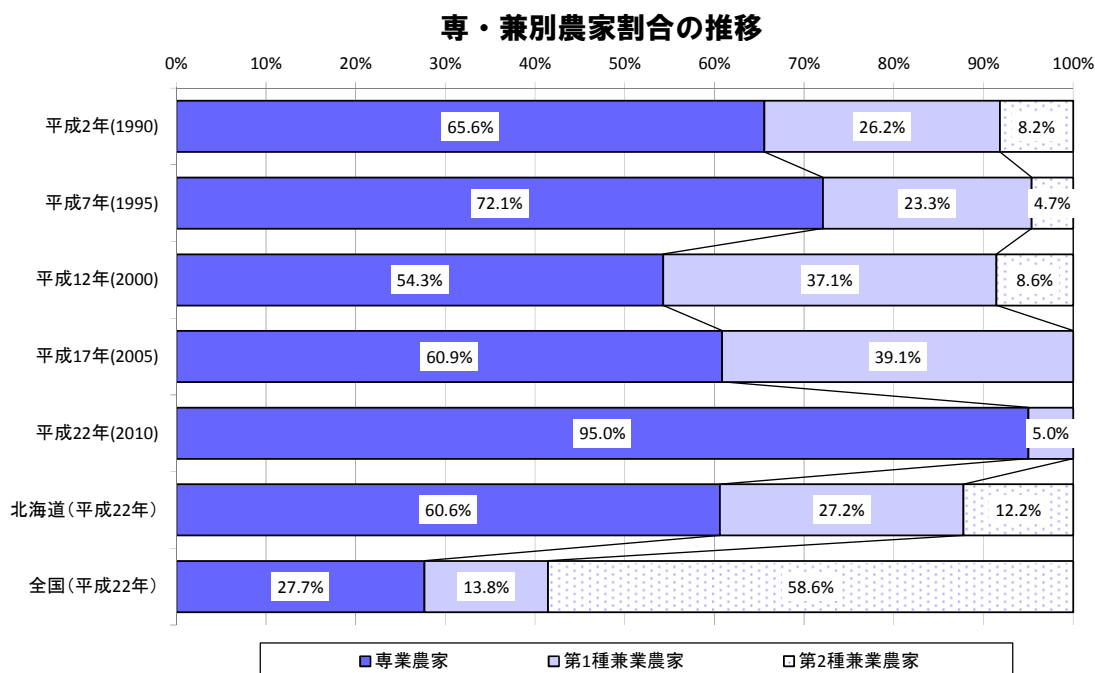
産業特化係数とは、全国の産業別就業構成比を「1」とした場合の、各自治体の産業別就業構成比です。

これで見ると、「林業」が7.1、「鉱業、採石業等」が5.5と高い構成比を示していますが、実際の就業者数は「林業」が4人、「鉱業、採石業等」が1人となっています。音威子府村では、全体の就業者数が少ないため、1人の就業者によって特化係数が大きく変化することがわかります。



③農業の状況

農家の状況についてみると、平成2年に65.6%だった専業農家が、平成22年では95.0%となっており、第2種兼業農家は平成17年以降0%となっています。なお、農家数についてみると、平成2年に61戸だった農家数が、平成22年には20戸となっているため、北海道や全国との単純な比較は難しくなっています。

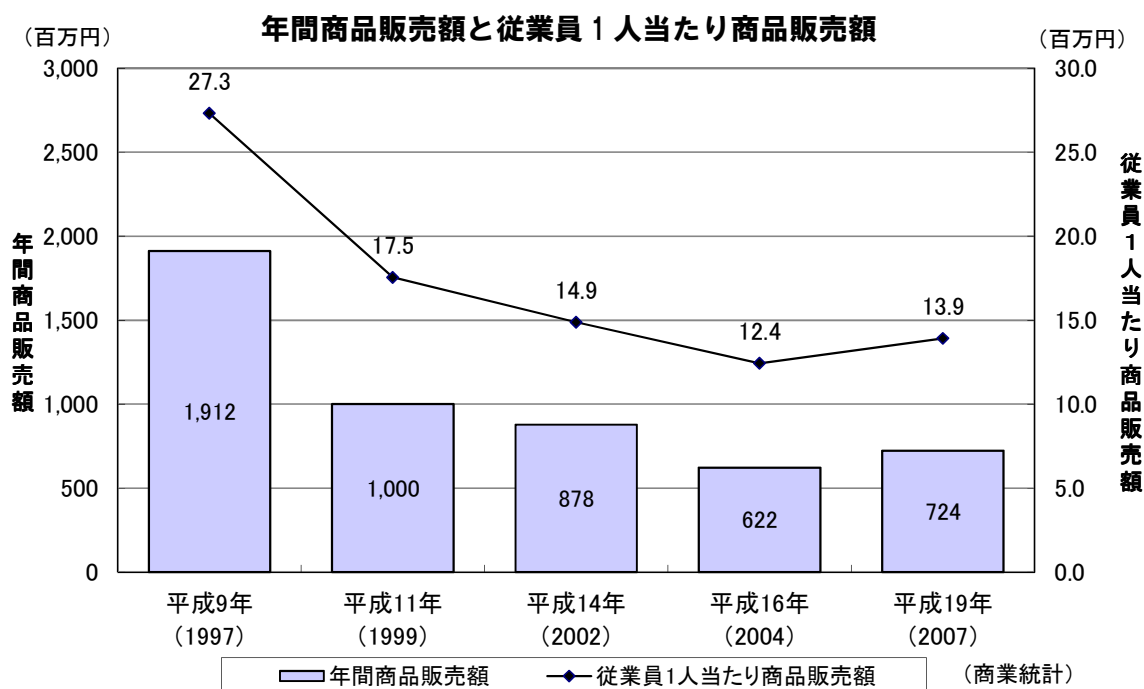
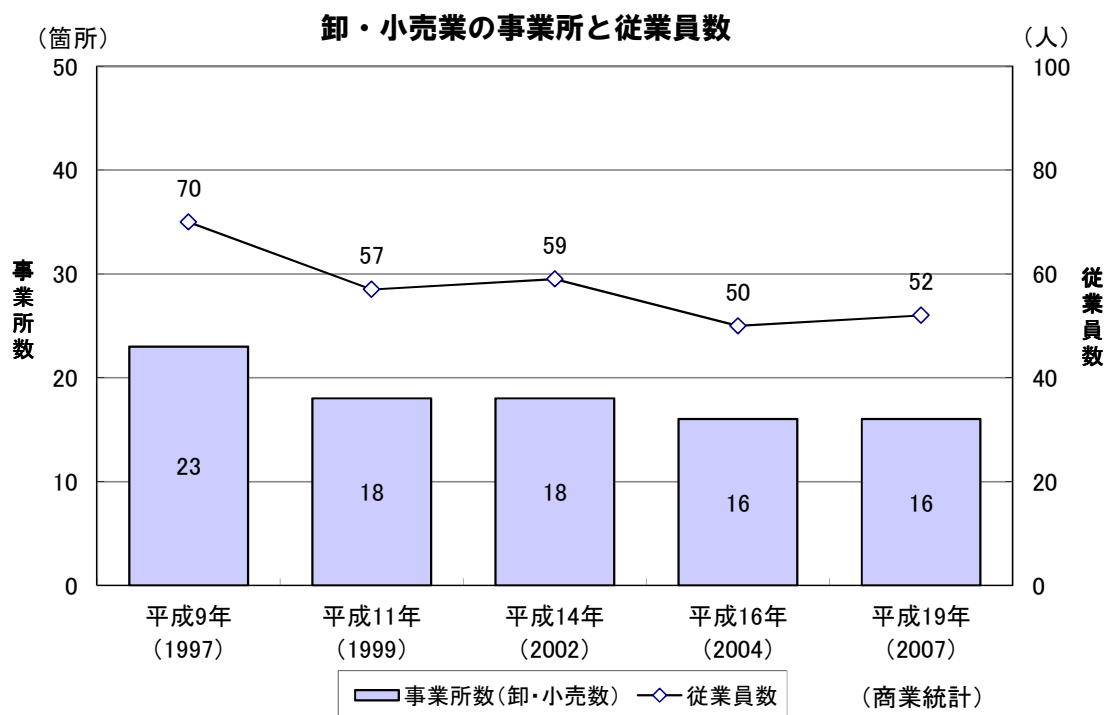


(農林業センサス)

④商工業の状況

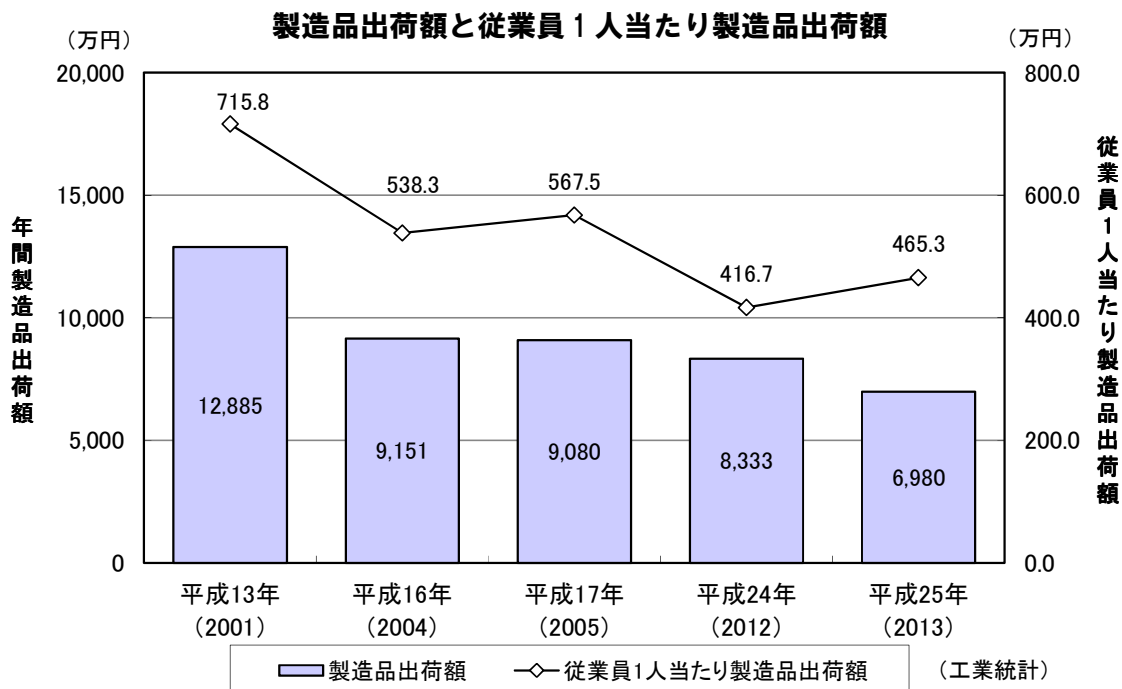
<商業>

人口減少に伴い商業購買力は小さくなっており、平成9年から平成16年まで事業所数、従業員数とともに年間商品販売額も減少傾向で推移していましたが、従業員数と年間商品販売額は平成19年にはやや増加しています。



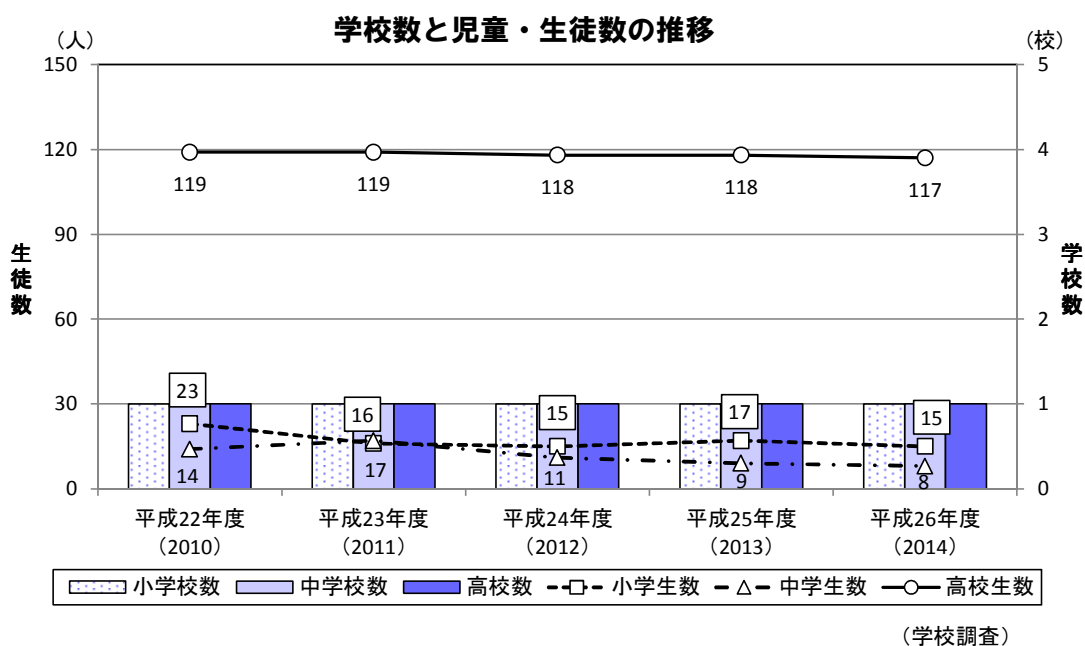
< 鉱工業 >

製造品出荷額は一貫した減少傾向で推移しており、平成 25 年には 6,980 万円と平成 13 年から 5,905 万円の減少しています。また、従業員 1 人当たりの出荷額は、平成 24 年までは減少傾向で推移していますが、平成 25 年にはやや増加し 465.3 万円となっています。



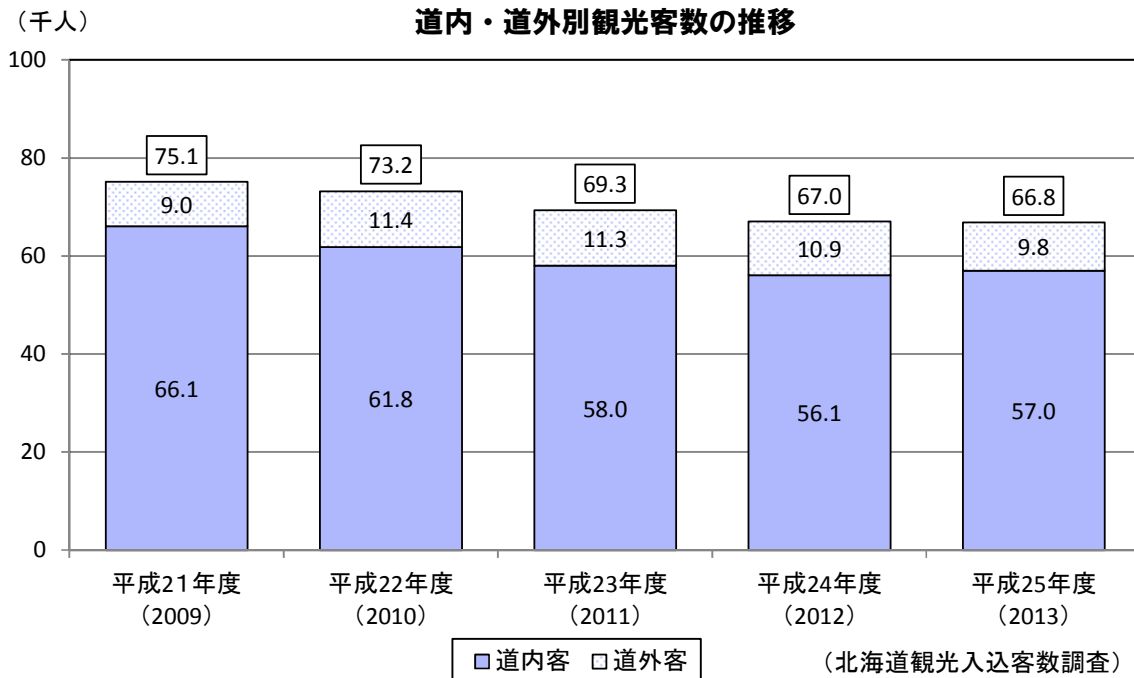
⑤ 児童・生徒数の状況

村内の児童・生徒数についてみると、小学校の児童数は平成 23 年度以降ほぼ横ばいで推移していますが、中学校の生徒数は平成 23 年度以降減少傾向で推移しており、平成 26 年度には 8 人となっています。高校の生徒数は、ほぼ横ばいとなっています。

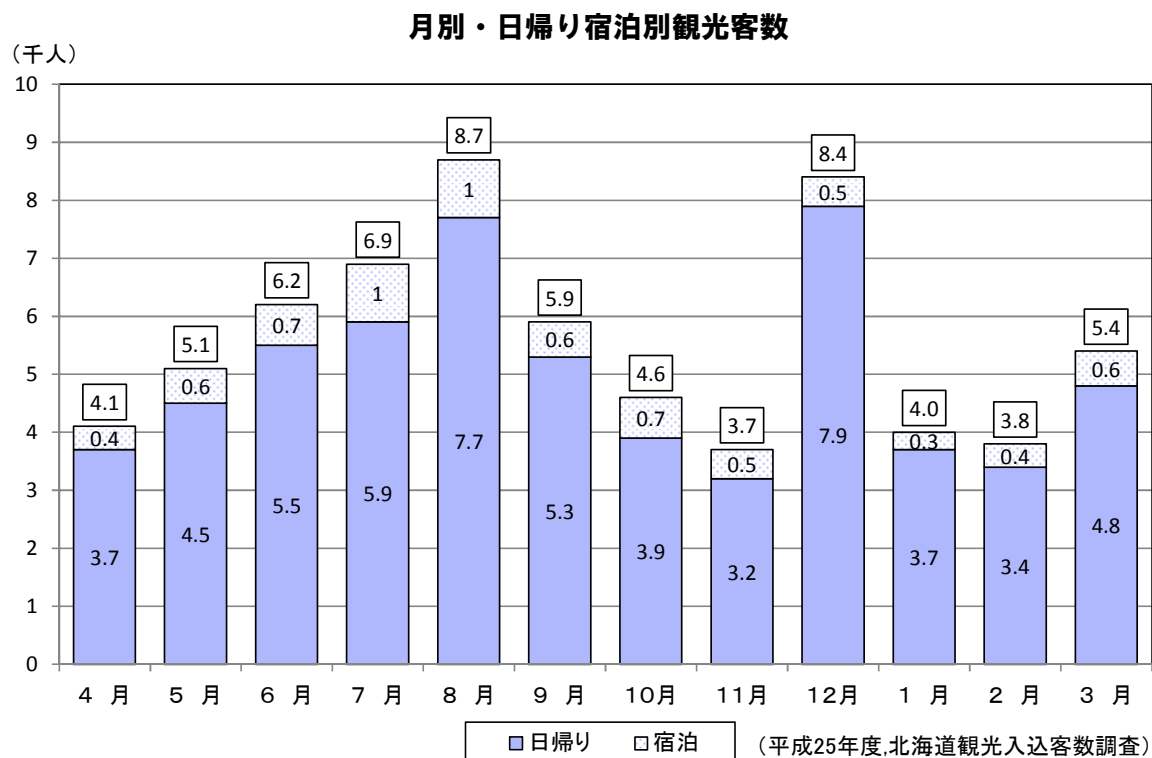


⑥観光の状況

音威子府村の観光客数は減少傾向で推移しており、平成 25 年度では 66,800 人となっており、道外からの観光客はほぼ横ばいで推移しているのに対して、道内の観光客が減少していることがわかります。



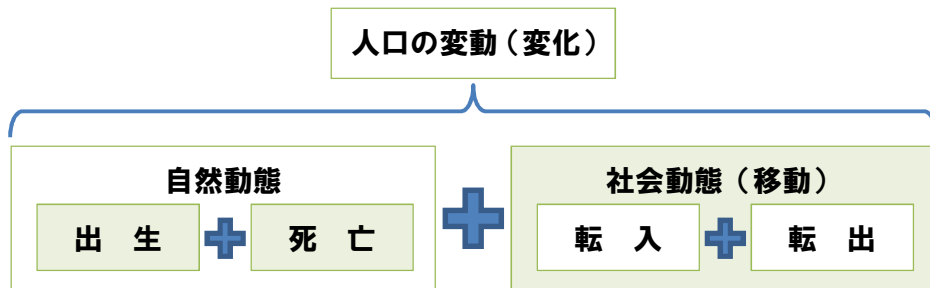
また、平成 25 年度の月別の観光客数をみると、日帰りの観光客は 12 月、次いで 8 月が多くなっている一方で、宿泊の観光客は 7 月・8 月がピークとなっています。



2. 将来人口の見通し

人口推計の基本的な考え方

○人口の変動（変化）は、出生・死亡・移動の3つの要素の変化によるものです。



○移動（社会動態）は、転入及び転出による現象ですが、人口推計上はこれを区別することなく、転入と転出の差引の結果としての（純）移動数として考えます。

○したがって、将来の人口推計を行うに当たっては、これらの人口変動の3要素の将来値をいかに設定するかがポイントとなります。

○人口推計は、上記の考え方を踏まえ、これに対応し得るコーホート要因法により行うものとします。

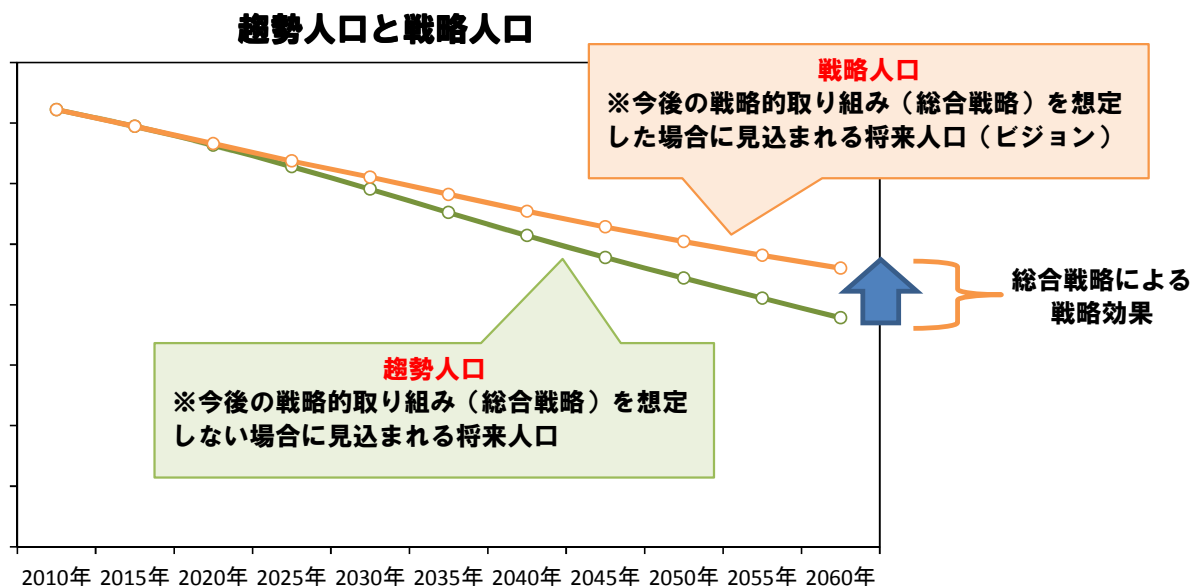
○具体の推計に当たっては、国が作成・配布した人口推計ツールを活用したシミュレーションを行っています。

趨勢人口と戦略人口

○人口ビジョンにおいて設定する将来人口は、総合戦略による戦略的な人口政策の取り組みを前提とするものであり、そうした意味において戦略人口として捉えることができます。

○こうした戦略人口の意義は、その前提とした戦略的な人口政策の取り組みを想定しない場合の将来人口（＝趨勢人口）と対比することにより、了解されるものです。

○また、戦略人口の推計シミュレーションは、趨勢人口をベースに検討することになります。



2015年の人口と音威子府村の特殊性を踏まえた人口推計の検討

○一般論としては、国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の推計を趨勢人口として解釈し、これを前提に戦略人口についての推計シミュレーションを行うこととなります。

[2015年の人口の検証]

○しかしながら、音威子府村の人口は社人研による推計では2015年に932人と想定されているものの、国勢調査ベースでの推計人口（2010年の国勢調査データに以降の自然動態・社会動態の状況を組み入れた人口）からは890人程度（10月1日現在）と見込まれており、既に実態との乖離が明らかな状況です。

時期		音威子府村の人口の推移 (国調ベース)	変化率	社人研推計準拠
2010年	10月1日	995		995
2013年	6月1日	920	101.20%	↓
	10月1日	931		
2014年	6月1日	917	98.80%	
	10月1日	906		
2015年	6月1日	890	100.00%	
	10月1日	890		932

過去2年間の5月⇒10月人口の変化率の平均100.0%を用いると、今年の10月時点の人口として890人程度が見込まれる

○したがって、まずは社人研の推計について、実態に近似するように補正を行う必要があります。

[音威子府村の特殊性]

○音威子府村には、生徒数120人前後のおといねっぴ美術工芸高等学校があり、基本的に常に一定の生徒数が確保されることとなります。

○しかしながら、社人研の推計においては、以下のように高校生が含まれる15～19歳のコーホート人口が、他の年齢層と同様に減少していくと推計されています。

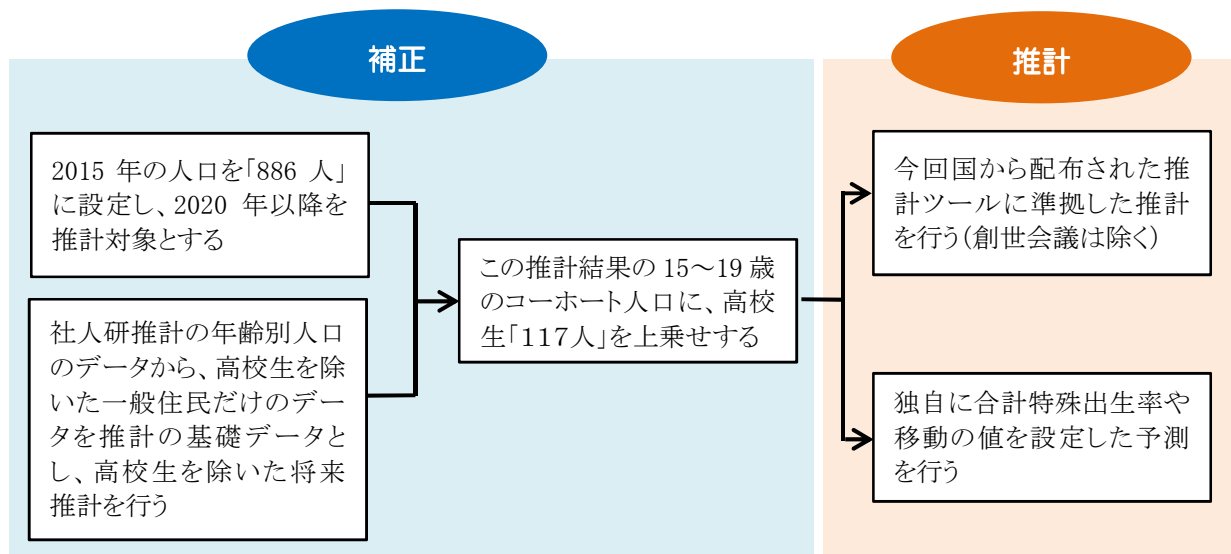
高校生が該当する「15～19歳」の年齢層の人口予測

2010年	2015年	2020年	2025年	2030年
151	95	27	27	28

○これは、おといねっぴ美術工芸高等学校が今後も存在するという前提にたった場合、実態と異なる推計となっています。

[今回の推計方法]

○こうした検証を踏まえ、社人研による推計をベースにしつつ、実態に合わせた補正推計を行い、これを村の趨勢人口とし、将来人口のシミュレーションを行うこととします。



(1) 人口推計のシミュレーション別概要

※ここでは、以下に示す4種類のシミュレーションを行っています。

※いずれの推計も2015年の人口は、「886人」と設定しています。

[パターン①：趨勢人口（社人研推計補正：現状の傾向が続くと仮定した場合の推計）]

○合計特殊出生率や移動の考え方は社人研推計の設定をベースに、高校生を除いた移動を推計した上で、各年に高校生を上乗せするという推計です。

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	原則として、2010年の全国の子ども女性比（15～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比）と各市町村の子ども女性比との比をとり、その比が平成27(2015)年以降2040年まで一定として市町村ごとに仮定。
死亡	原則として、55～59歳→60～64歳以下では、全国と都道府県の2005年→2010年の生残率の比から算出される生残率を都道府県内市町村に対して一律に適用。60～64歳→65～69歳以上では、これに加えて、都道府県と市町村の2000年→2005年の生残率の比から算出される生残率を市町村別に適用。
移動	社人研の設定をベースに、一旦高校生を除いた人口の移動を推計した上で、各年高校生の生徒数を上乗。

[パターン②：パターン①+出生率上昇+定住化（純定住率⇒1.0）]

○村独自推計で、趨勢人口をベースに、出生率の上昇と純定住率の上昇を見込んだ推計です。

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	合計特殊出生率が2025年までに「1.80」、2030年に「2.07」、その後一定とする。
死亡	パターン①と同様。
移動	社人研推計における純移動率設定をベースに、純定住率（=1+純移動率）という新たな視点を導入し、各年齢層を通じたライフサイクルでの純定住率（各年齢層の純定住率の積）が2060年までに1.0に上昇すると設定。

[パターン③：パターン①+出生率上昇]

○国提示の基本的シミュレーションで、趨勢による推計をベースに、出生率の上昇を見込んだ推計です。

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	合計特殊出生率が2030年までに人口置換水準（2.1）まで上昇、その後は2.1を維持するものと仮定。
死亡	パターン①と同様。
移動	パターン①と同様。

[パターン④：パターン③+移動ゼロ]

○国提示の基本的シミュレーションで、パターン③をベースに、移動がゼロ（均衡）を見込んだ推計です。

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	合計特殊出生率が2030年までに人口置換水準（2.1）まで上昇、その後は2.1を維持するものと仮定。
死亡	パターン①と同様。
移動	移動（純移動率）がゼロ（均衡）で推移すると仮定。

<参考：純移動率と純定住率について>

- ◇純移動率とは、各コーホート人口（性別・年齢区分別人口）に対する当該コーホートの移動数の比率であり、転入超過の場合はプラス、転出超過の場合はマイナスとなります。
- ◇推計上、新たに導入する純定住率とは、この純移動率に1.0を加えた数値であり、転入超過の場合は1.0を超え、転出超過の場合は1.0未満（ゼロ以上）、また、転入・転出が均衡して移動ゼロの場合は1.0となります。
- ◇趨勢人口推計における純移動率から算出される本村の純定住率は、2015年仮定値で男性が0.17程度、女性が0.03程度となっています。
- ◇これは、出生や死亡による人口変動要因を排除した場合、移動という要因だけで人口が減少していく構造であることを示しています。
- ◇定住促進とは、この純定住率の上昇をめざす取り組みと解釈することができます。

趨勢人口から算出される純定住率設定

純定住率・男	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年	
0～4歳→5～9歳	0.50482	0.88068	0.88123	0.88130	0.88130	0.88126	0.88126	0.88126	0.88126	0.88126	
5～9歳→10～14歳	0.66906	0.89000	0.89067	0.89081	0.89082	0.89079	0.89079	0.89079	0.89079	0.89079	
10～14歳→15～19歳	0.90487	0.86783	0.89963	0.93637	0.93330	0.93361	0.93361	0.93361	0.93361	0.93361	
15～19歳→20～24歳	0.61522	0.68418	0.68437	0.68401	0.68343	0.68324	0.68324	0.68324	0.68324	0.68324	
20～24歳→25～29歳	1.00793	0.94931	0.94897	0.94959	0.95012	0.94983	0.94983	0.94983	0.94983	0.94983	
25～29歳→30～34歳	1.06118	0.92756	0.92862	0.92843	0.92824	0.92812	0.92812	0.92812	0.92812	0.92812	
30～34歳→35～39歳	0.92673	0.82303	0.82375	0.82362	0.82350	0.82333	0.82333	0.82333	0.82333	0.82333	
35～39歳→40～44歳	0.96311	0.89019	0.89069	0.89056	0.89044	0.89039	0.89039	0.89039	0.89039	0.89039	
40～44歳→45～49歳	1.67532	0.94228	0.94231	0.94229	0.94223	0.94229	0.94229	0.94229	0.94229	0.94229	
45～49歳→50～54歳	1.12331	0.89870	0.89860	0.89848	0.89852	0.89850	0.89850	0.89850	0.89850	0.89850	
50～54歳→55～59歳	1.03300	0.87628	0.87647	0.87625	0.87617	0.87627	0.87627	0.87627	0.87627	0.87627	
55～59歳→60～64歳	0.92060	0.84112	0.84156	0.84170	0.84143	0.84139	0.84139	0.84139	0.84139	0.84139	
60～64歳→65～69歳	0.98179	0.89824	0.89873	0.89902	0.89919	0.89878	0.89878	0.89878	0.89878	0.89878	
65～69歳→70～74歳	0.90357	0.90676	0.90520	0.90563	0.90593	0.90615	0.90615	0.90615	0.90615	0.90615	
70～74歳→75～79歳	0.92562	0.89655	0.89905	0.89619	0.89694	0.89737	0.89737	0.89737	0.89737	0.89737	
75～79歳→80～84歳	0.96153	0.93317	0.93141	0.93526	0.93069	0.93195	0.93195	0.93195	0.93195	0.93195	
80～84歳→85～89歳	0.82715	0.93428	0.93259	0.93046	0.93572	0.92955	0.92955	0.92955	0.92955	0.92955	
85歳以上→90歳以上	0.83201	1.01890	1.00810	1.00261	1.01169	1.01756	1.01756	1.01756	1.01756	1.01756	
	0.17455	0.12156	0.12498	0.12926	0.13012	0.13014	0.13014	0.13014	0.13014	0.13014	←総積の設定
純定住率・女	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年	
0～4歳→5～9歳	0.70782	0.92350	0.92394	0.92406	0.92407	0.92401	0.92401	0.92401	0.92401	0.92401	
5～9歳→10～14歳	0.71355	0.92274	0.92341	0.92361	0.92363	0.92360	0.92360	0.92360	0.92360	0.92360	
10～14歳→15～19歳	0.44637	0.94297	0.93830	0.93682	0.93371	0.93408	0.93408	0.93408	0.93408	0.93408	
15～19歳→20～24歳	0.78628	0.85216	0.85239	0.85234	0.85214	0.85205	0.85205	0.85205	0.85205	0.85205	
20～24歳→25～29歳	0.87341	1.09085	1.07934	1.44552	1.52637	1.55210	1.55210	1.55210	1.55210	1.55210	
25～29歳→30～34歳	0.80121	0.86412	0.86608	0.86589	0.86564	0.86540	0.86540	0.86540	0.86540	0.86540	
30～34歳→35～39歳	0.88172	0.88044	0.88159	0.88162	0.88153	0.88137	0.88137	0.88137	0.88137	0.88137	
35～39歳→40～44歳	0.84953	0.88958	0.89026	0.89035	0.89041	0.89042	0.89042	0.89042	0.89042	0.89042	
40～44歳→45～49歳	0.78923	0.91337	0.91357	0.91361	0.91361	0.91366	0.91366	0.91366	0.91366	0.91366	
45～49歳→50～54歳	0.95439	0.89617	0.89614	0.89613	0.89614	0.89612	0.89612	0.89612	0.89612	0.89612	
50～54歳→55～59歳	0.96892	0.90450	0.90462	0.90456	0.90452	0.90454	0.90454	0.90454	0.90454	0.90454	
55～59歳→60～64歳	0.87668	0.89442	0.89482	0.89493	0.89487	0.89486	0.89486	0.89486	0.89486	0.89486	
60～64歳→65～69歳	0.95912	0.92685	0.92703	0.92715	0.92723	0.92706	0.92706	0.92706	0.92706	0.92706	
65～69歳→70～74歳	0.91099	0.91747	0.91660	0.91682	0.91698	0.91707	0.91707	0.91707	0.91707	0.91707	
70～74歳→75～79歳	0.92642	0.90394	0.90523	0.90355	0.90397	0.90426	0.90426	0.90426	0.90426	0.90426	
75～79歳→80～84歳	0.88835	0.90013	0.89970	0.90175	0.89884	0.89960	0.89960	0.89960	0.89960	0.89960	
80～84歳→85～89歳	0.83173	0.82150	0.82105	0.81998	0.82332	0.81895	0.81895	0.81895	0.81895	0.81895	
85歳以上→90歳以上	0.93759	0.96032	0.95490	0.94623	0.94400	0.95199	0.95199	0.95199	0.95199	0.95199	
	0.03334	0.18273	0.18001	0.23846	0.25061	0.25584	0.25584	0.25584	0.25584	0.25584	←総積の設定

◇趨勢人口から算出された純定住率について、各年齢層の積（総積）が2060年までに1.0にまで上昇すると仮定した純定住率の設定は次のとおりです。

純定住率・男

	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年
0～4歳→5～9歳	0.50482	0.51680	0.52537	0.53207	0.53759	0.54228	0.54637	0.55000	0.55326	0.55623
5～9歳→10～14歳	0.66906	0.68494	0.69630	0.70518	0.71249	0.71871	0.72413	0.72894	0.73326	0.73719
10～14歳→15～19歳	0.90487	0.92635	0.94171	0.95372	0.96360	0.97202	0.97935	0.98585	0.99170	0.99702
15～19歳→20～24歳	0.61522	0.62982	0.64027	0.64843	0.65515	0.66087	0.66586	0.67028	0.67426	0.67787
20～24歳→25～29歳	1.00793	1.03185	1.04896	1.06234	1.07335	1.08272	1.09089	1.09813	1.10465	1.11057
25～29歳→30～34歳	1.06118	1.08637	1.10439	1.11847	1.13006	1.13993	1.14853	1.15616	1.16301	1.16925
30～34歳→35～39歳	0.92673	0.94872	0.96445	0.97675	0.98688	0.99549	1.00300	1.00967	1.01565	1.02110
35～39歳→40～44歳	0.96311	0.98597	1.00232	1.01510	1.02562	1.03458	1.04238	1.04930	1.05553	1.06118
40～44歳→45～49歳	1.67532	1.71508	1.74352	1.76575	1.78406	1.79963	1.81321	1.82525	1.83608	1.84592
45～49歳→50～54歳	1.12331	1.14997	1.16904	1.18395	1.19622	1.20667	1.21577	1.22384	1.23110	1.23770
50～54歳→55～59歳	1.03300	1.05752	1.07505	1.08876	1.10004	1.10965	1.11802	1.12545	1.13212	1.13819
55～59歳→60～64歳	0.92060	0.94245	0.95808	0.97030	0.98035	0.98891	0.99637	1.00299	1.00894	1.01435
60～64歳→65～69歳	0.98179	1.00509	1.02176	1.03479	1.04551	1.05464	1.06260	1.06966	1.07600	1.08177
65～69歳→70～74歳	0.90357	0.92502	0.94036	0.95235	0.96222	0.97062	0.97794	0.98444	0.99028	0.99559
70～74歳→75～79歳	0.92562	0.94760	0.96331	0.97559	0.98570	0.99431	1.00181	1.00847	1.01445	1.01988
75～79歳→80～84歳	0.96153	0.98436	1.00068	1.01344	1.02394	1.03289	1.04068	1.04759	1.05380	1.05945
80～84歳→85～89歳	0.82715	0.84679	0.86083	0.87181	0.88084	0.88853	0.89524	0.90118	0.90653	0.91138
85歳以上→90歳以上	0.83201	0.85175	0.86588	0.87692	0.88601	0.89374	0.90049	0.90647	0.91184	0.91673

純定住率・女

	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年
0～4歳→5～9歳	0.70782	0.76678	0.79133	0.80730	0.81922	0.82877	0.83676	0.84362	0.84965	0.85503
5～9歳→10～14歳	0.71355	0.77299	0.79773	0.81383	0.82585	0.83548	0.84353	0.85045	0.85653	0.86195
10～14歳→15～19歳	0.44637	0.48356	0.49903	0.50911	0.51663	0.52265	0.52768	0.53201	0.53582	0.53921
15～19歳→20～24歳	0.78628	0.85178	0.87904	0.89678	0.91003	0.92064	0.92950	0.93713	0.94383	0.94981
20～24歳→25～29歳	0.87341	0.94617	0.97646	0.99616	1.01088	1.02266	1.03251	1.04098	1.04843	1.05507
25～29歳→30～34歳	0.80121	0.86795	0.89573	0.91381	0.92731	0.93812	0.94715	0.95493	0.96175	0.96784
30～34歳→35～39歳	0.88172	0.95517	0.98575	1.00564	1.02050	1.03239	1.04234	1.05089	1.05840	1.06510
35～39歳→40～44歳	0.84953	0.92029	0.94975	0.96892	0.98323	0.99469	1.00427	1.01251	1.01975	1.02621
40～44歳→45～49歳	0.78923	0.85497	0.88234	0.90014	0.91344	0.92409	0.93299	0.94064	0.94737	0.95337
45～49歳→50～54歳	0.95439	1.03390	1.06699	1.08852	1.10460	1.11748	1.12824	1.13750	1.14563	1.15289
50～54歳→55～59歳	0.96892	1.04963	1.08323	1.10509	1.12141	1.13449	1.14541	1.15481	1.16307	1.17043
55～59歳→60～64歳	0.87668	0.94971	0.98011	0.99989	1.01466	1.02649	1.03637	1.04488	1.05235	1.05901
60～64歳→65～69歳	0.95912	1.03902	1.07227	1.09391	1.11007	1.12301	1.13383	1.14313	1.15130	1.15860
65～69歳→70～74歳	0.91099	0.98688	1.01847	1.03902	1.05437	1.06667	1.07694	1.08578	1.09354	1.10046
70～74歳→75～79歳	0.92642	1.00359	1.03571	1.05662	1.07222	1.08472	1.09517	1.10416	1.11205	1.11909
75～79歳→80～84歳	0.88835	0.96236	0.99316	1.01320	1.02817	1.04016	1.05017	1.05879	1.06636	1.07311
80～84歳→85～89歳	0.83173	0.90102	0.92986	0.94863	0.96264	0.97386	0.98324	0.99131	0.99840	1.00472
85歳以上→90歳以上	0.93759	1.01569	1.04820	1.06936	1.08515	1.09780	1.10838	1.11747	1.12546	1.13259

←総積の設定

←総積の設定

(2) シミュレーション結果

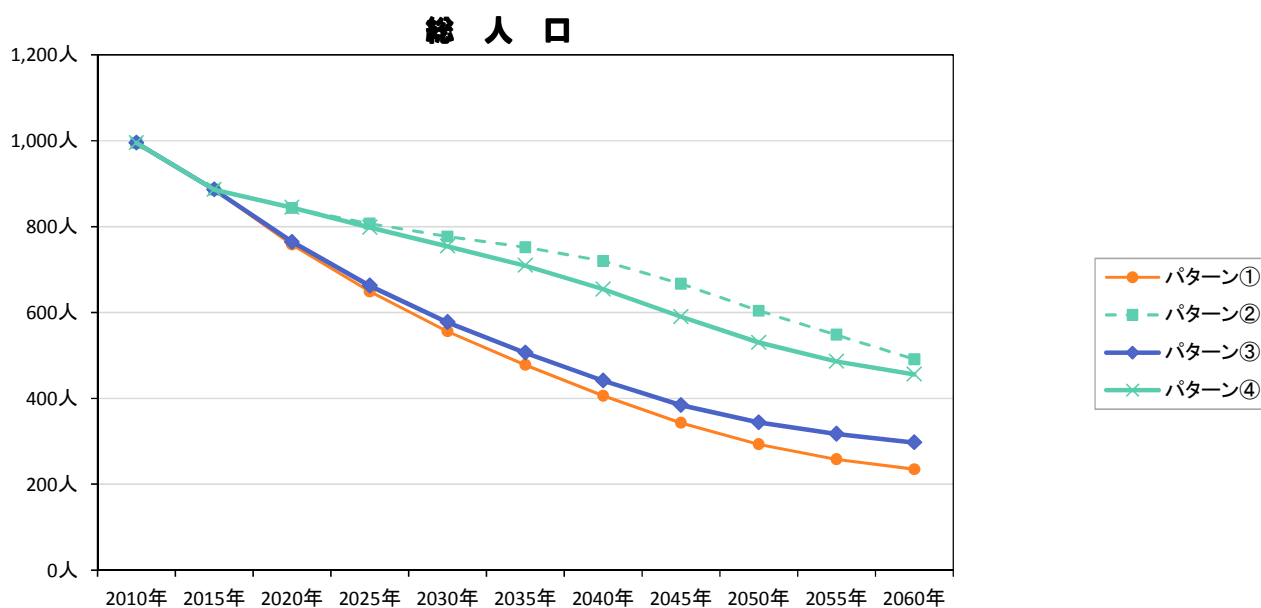
①総人口

○パターン①では、2060年に235人にまで減少しています。

○パターン②では、2060年には490人程度になると思われます。

○パターン③では、パターン①に比べ人口減少は抑制されていますが、合計特殊出生率が上昇しても、母数となる女性の人口そのものが減少しているため、大きな出生数の増加はなく、人口減少抑制に大きな効果はみられません。

○パターン④は、パターン③をベースに、「移動ゼロ」という考え方で、いわゆる転出入が均衡（ゼロ）という状態が2020年以降続くという想定であり、人口減少抑制という観点からは一定の効果がみられ、2060年には460人程度の人口となっています。



(単位: 人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン①	995	886	758	649	556	478	406	343	293	258	235
パターン②	995	886	843	807	777	752	720	667	604	548	491
パターン③	995	886	764	662	577	506	441	384	344	317	297
パターン④	995	886	844	798	754	709	654	590	530	486	456

②人口構造

[年齢構造別人口]

○高校生が属する「15～39歳」の年齢層は、各パターンで一定の人数が確保されていますが、その他の年齢層の人口は概ね減少しています。

○パターン①とパターン③では、総人口の減少とともに高齢者人口も減少していますが、パターン②では500人程度の人口は確保できるものの、高齢者の人口がほとんど減少しないという結果となっています。

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン①	995	886	758	649	556	478	406	343	293	258	235
0～14歳	53	29	23	18	15	15	15	14	11	9	9
15～39歳	300	246	216	191	168	156	151	146	142	140	139
40～64歳	396	370	260	165	125	101	71	59	50	37	29
65～74歳	112	105	140	156	115	60	44	31	20	23	22
75歳以上	134	136	119	119	133	146	125	93	70	49	36
パターン②	995	886	843	807	777	752	720	667	604	548	491
0～14歳	53	29	25	23	24	20	16	15	15	15	15
15～39歳	300	246	222	196	159	140	134	132	131	132	131
40～64歳	396	370	317	257	250	252	213	189	148	81	35
65～74歳	112	105	153	194	165	112	126	121	98	126	127
75歳以上	134	136	126	137	179	228	231	210	212	194	183
パターン③	995	886	764	662	577	506	441	384	344	317	297
0～14歳	53	29	29	31	36	39	41	39	40	41	42
15～39歳	300	246	216	191	168	160	160	162	164	167	167
40～64歳	396	370	260	165	125	101	71	59	50	37	30
65～74歳	112	105	140	156	115	60	44	31	20	23	22
75歳以上	134	136	119	119	133	146	125	93	70	49	36
パターン④	995	886	844	798	754	709	654	590	530	486	456
0～14歳	53	29	32	36	45	48	49	46	45	47	51
15～39歳	300	246	230	210	181	172	173	179	186	193	193
40～64歳	396	370	294	209	179	160	129	112	92	64	56
65～74歳	112	105	154	196	166	99	80	65	52	61	54
75歳以上	134	136	134	147	183	230	223	188	155	121	102

[年齢階級別人口構成比]

○年齢別構成比で見ると、パターン①、③、④は65歳以上の高齢化率が2060年には20～30%となっていますが、パターン②は60%程度にまで上昇しています。

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン①	995	886	758	649	556	478	406	343	293	258	235
0～14歳	5.3%	3.3%	3.0%	2.8%	2.7%	3.1%	3.7%	4.1%	3.8%	3.5%	3.8%
15～39歳	30.2%	27.8%	28.5%	29.4%	30.2%	32.6%	37.2%	42.6%	48.5%	54.3%	59.1%
40～64歳	39.8%	41.8%	34.3%	25.4%	22.5%	21.1%	17.5%	17.2%	17.1%	14.3%	12.3%
65～74歳	11.3%	11.9%	18.5%	24.0%	20.7%	12.6%	10.8%	9.0%	6.8%	8.9%	9.4%
75歳以上	13.5%	15.3%	15.7%	18.3%	23.9%	30.5%	30.8%	27.1%	23.9%	19.0%	15.3%
パターン②	995	886	843	807	777	752	720	667	604	548	491
0～14歳	5.3%	3.3%	3.0%	2.9%	3.1%	2.7%	2.2%	2.2%	2.5%	2.7%	3.1%
15～39歳	30.2%	27.8%	26.3%	24.3%	20.5%	18.6%	18.6%	19.8%	21.7%	24.1%	26.7%
40～64歳	39.8%	41.8%	37.6%	31.8%	32.2%	33.5%	29.6%	28.3%	24.5%	14.8%	7.1%
65～74歳	11.3%	11.9%	18.1%	24.0%	21.2%	14.9%	17.5%	18.1%	16.2%	23.0%	25.9%
75歳以上	13.5%	15.3%	14.9%	17.0%	23.0%	30.3%	32.1%	31.5%	35.1%	35.4%	37.3%
パターン③	995	886	764	662	577	506	441	384	344	317	297
0～14歳	5.3%	3.3%	3.8%	4.7%	6.2%	7.7%	9.3%	10.2%	11.6%	12.9%	14.1%
15～39歳	30.2%	27.8%	28.3%	28.9%	29.1%	31.6%	36.3%	42.2%	47.7%	52.7%	56.2%
40～64歳	39.8%	41.8%	34.0%	24.9%	21.7%	20.0%	16.1%	15.4%	14.5%	11.7%	10.1%
65～74歳	11.3%	11.9%	18.3%	23.6%	19.9%	11.9%	10.0%	8.1%	5.8%	7.3%	7.4%
75歳以上	13.5%	15.3%	15.6%	18.0%	23.1%	28.9%	28.3%	24.2%	20.3%	15.5%	12.1%
パターン④	995	886	844	798	754	709	654	590	530	486	456
0～14歳	5.3%	3.3%	3.8%	4.5%	6.0%	6.8%	7.5%	7.8%	8.5%	9.7%	11.2%
15～39歳	30.2%	27.8%	27.3%	26.3%	24.0%	24.3%	26.5%	30.3%	35.1%	39.7%	42.3%
40～64歳	39.8%	41.8%	34.8%	26.2%	23.7%	22.6%	19.7%	19.0%	17.4%	13.2%	12.3%
65～74歳	11.3%	11.9%	18.2%	24.6%	22.0%	14.0%	12.2%	11.0%	9.8%	12.6%	11.8%
75歳以上	13.5%	15.3%	15.9%	18.4%	24.3%	32.4%	34.1%	31.9%	29.2%	24.9%	22.4%

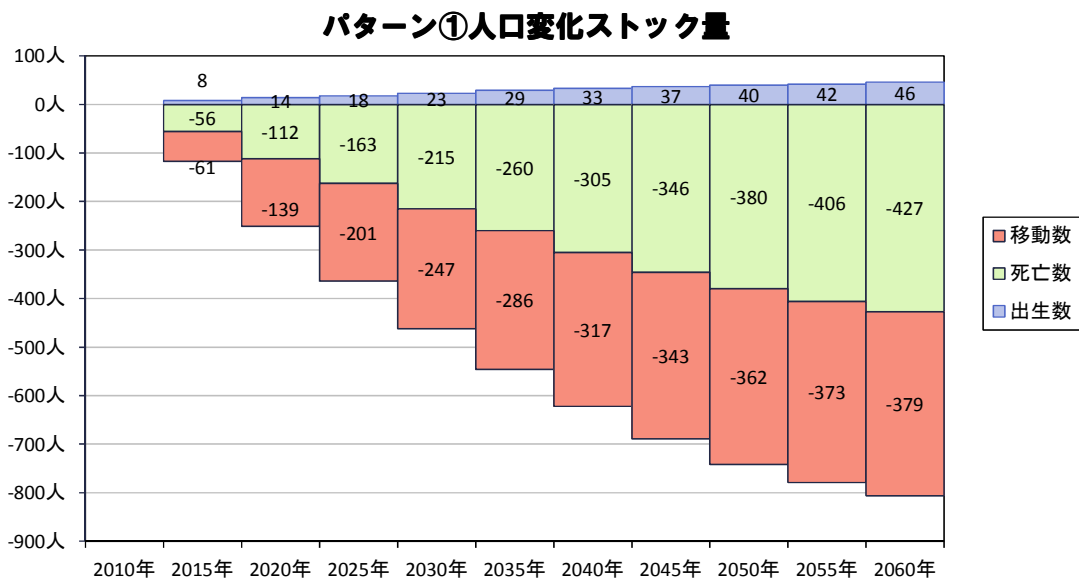
③人口変化の内訳

○2060年までの死亡数はすべてのパターンで現在の人口の半数程度または半数以上を占めています。

○この死亡数をカバーする「出生数」や「移動数」がなければ、人口は減少することとなります。

○移動数は、転入・転出の総和であり、パターン②を除いていずれも「マイナス」となっています。なお、パターン④では2015年時点の移動数「-61」がそのままストック量として残る結果となっています。

[パターン①]



(単位: 人)

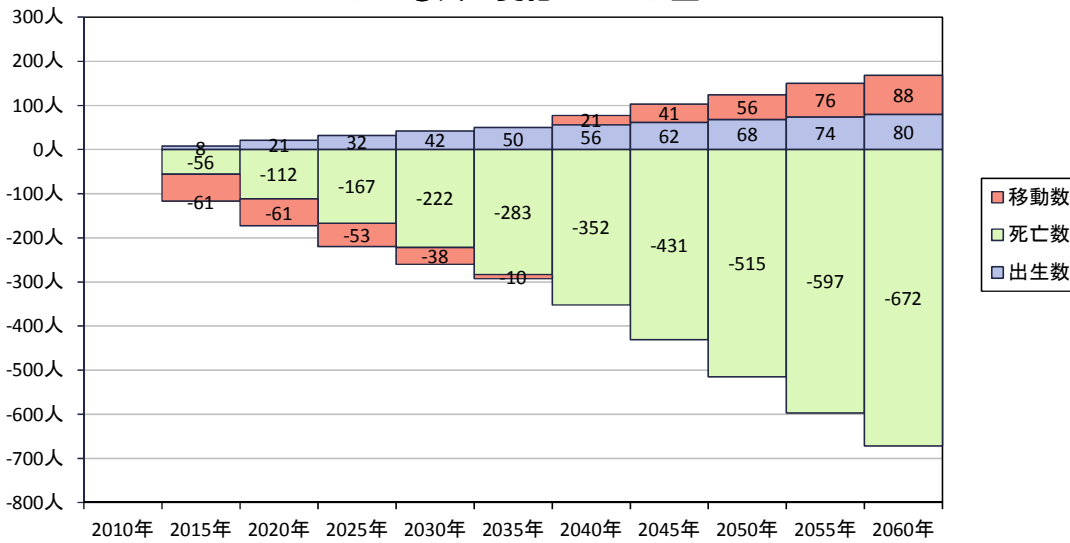
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
出生数		8	6	4	5	6	4	4	3	2	4
死亡数		-56	-56	-51	-52	-45	-45	-41	-34	-26	-21
移動数		-61	-78	-62	-46	-39	-31	-26	-19	-11	-6
自然動態+社会動態		-109	-128	-109	-93	-78	-72	-63	-50	-35	-23
総人口	995	886	758	649	556	478	406	343	293	258	235

(単位: 人)

積み上げ(変化ストック)	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
出生数		8	14	18	23	29	33	37	40	42	46
死亡数		-56	-112	-163	-215	-260	-305	-346	-380	-406	-427
移動数		-61	-139	-201	-247	-286	-317	-343	-362	-373	-379
自然動態+社会動態		-109	-237	-346	-439	-517	-589	-652	-702	-737	-760

[パターン②]

パターン②人口変化ストック量



(単位：人)

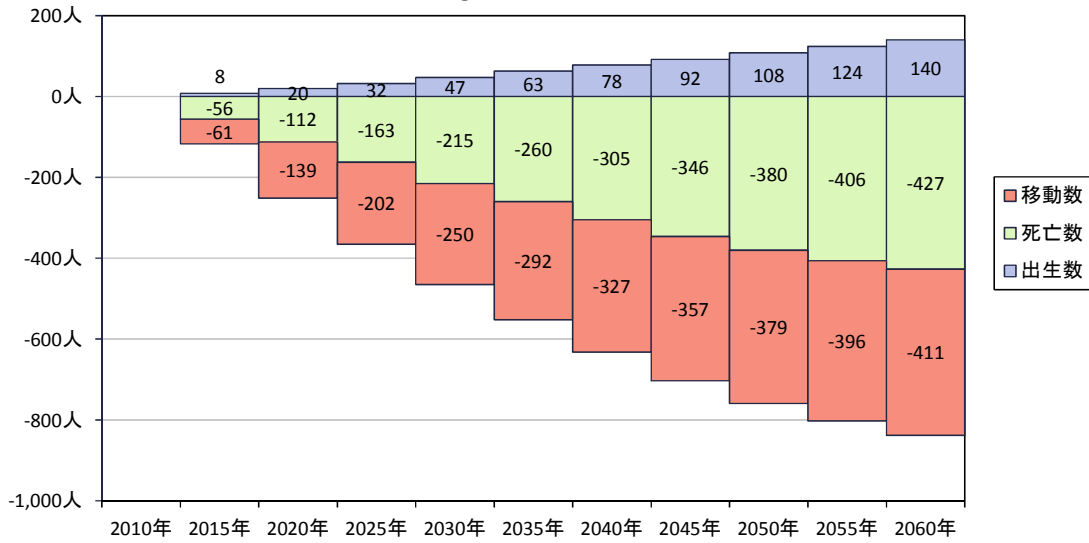
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
出生数		8	13	11	10	8	6	6	6	6	6
死亡数		-56	-56	-55	-55	-61	-69	-79	-84	-82	-75
移動数		-61	0	8	15	28	31	20	15	20	12
自然動態＋社会動態		-109	-43	-36	-30	-25	-32	-53	-63	-56	-57
総人口	995	886	843	807	777	752	720	667	604	548	491

(単位：人)

積み上げ（変化ストック）	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
出生数		8	21	32	42	50	56	62	68	74	80
死亡数		-56	-112	-167	-222	-283	-352	-431	-515	-597	-672
移動数		-61	-61	-53	-38	-10	21	41	56	76	88
自然動態＋社会動態		-109	-152	-188	-218	-243	-275	-328	-391	-447	-504

[パターン③]

パターン③人口変化ストック量



(単位: 人)

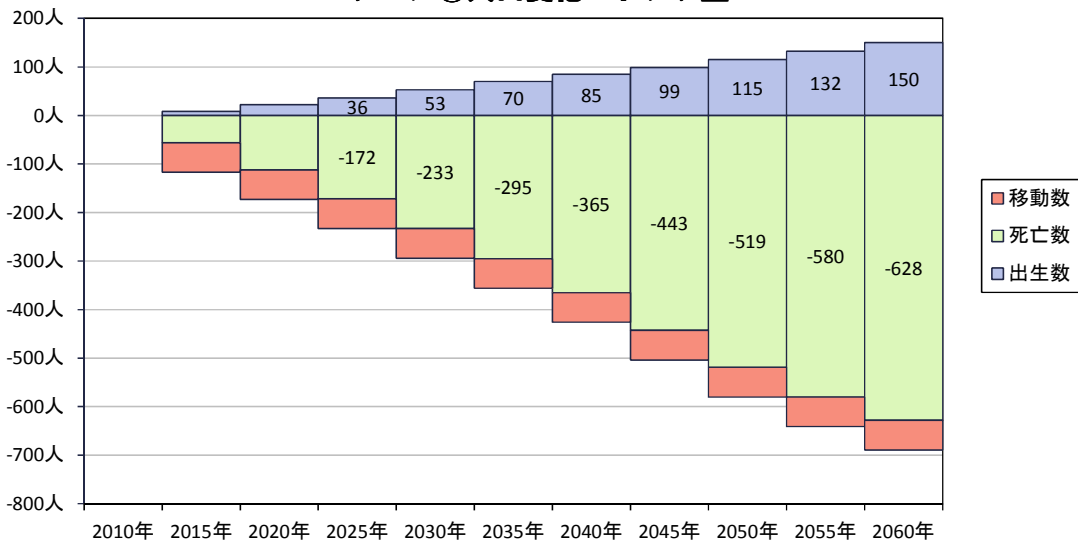
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
出生数		8	12	12	15	16	15	14	16	16	16
死亡数		-56	-56	-51	-52	-45	-45	-41	-34	-26	-21
移動数		-61	-78	-63	-48	-42	-35	-30	-22	-17	-15
自然動態+社会動態		-109	-122	-102	-85	-71	-65	-57	-40	-27	-20
総人口	995	886	764	662	577	506	441	384	344	317	297

(単位: 人)

積み上げ (変化ストック)	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
出生数		8	20	32	47	63	78	92	108	124	140
死亡数		-56	-112	-163	-215	-260	-305	-346	-380	-406	-427
移動数		-61	-139	-202	-250	-292	-327	-357	-379	-396	-411
自然動態+社会動態		-109	-231	-333	-418	-489	-554	-611	-651	-678	-698

[パターン④]

パターン④人口変化ストック量



(単位：人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
出生数		8	14	14	17	17	15	14	16	17	18
死亡数		-56	-56	-60	-61	-62	-70	-78	-76	-61	-48
移動数		-61	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自然動態＋社会動態		-109	-42	-46	-44	-45	-55	-64	-60	-44	-30
総人口	995	886	844	798	754	709	654	590	530	486	456

(単位：人)

積み上げ(変化ストック)	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
出生数		8	22	36	53	70	85	99	115	132	150
死亡数		-56	-112	-172	-233	-295	-365	-443	-519	-580	-628
移動数		-61	-61	-61	-61	-61	-61	-61	-61	-61	-61
自然動態＋社会動態		-109	-151	-197	-241	-286	-341	-405	-465	-509	-539

3. 音威子府村における人口動向・構造の特性と課題

<特 性>

○総人口

- ・本村の総人口は 1985 年の 2,068 人から減少が加速的に進んでおり、2010 年には 995 人にまで減少（25 年間で 1,073 人の減少）しています。

○人口構造

- ・年少人口（0～14 歳）比率は 1985 年の 18.3%から 2010 年には 5.3%に減少したのに対し、高齢化率は 10.3%から 24.7%に増加しており、本村においても少子高齢化が進行しています。

○出生・死亡

- ・出生・死亡者数については、多少の振幅はあるものの、ほぼ横ばいで推移しており、2010 年～2014 年の 5 年間は、死亡者数が出生数を上回っています。

○転入・転出

- ・転入・転出者数についても、多少の振幅はあるものの、ほぼ横ばいで推移しており、2010 年～2014 年の 5 年間は、転出者数が転入者数を上回っています。
- ・移動（転入・転出）が特に多い年代は、男女ともに 15～19 歳であり、これはおといねっぴ美術工芸高等学校の生徒の入学・卒業に伴う移動が原因です。
- ・転入元については札幌市、転出先については上川総合振興局区域（剣淵町、東神楽町、愛別町等）が最も多く、それぞれ全体の 2 割程度を占めています。

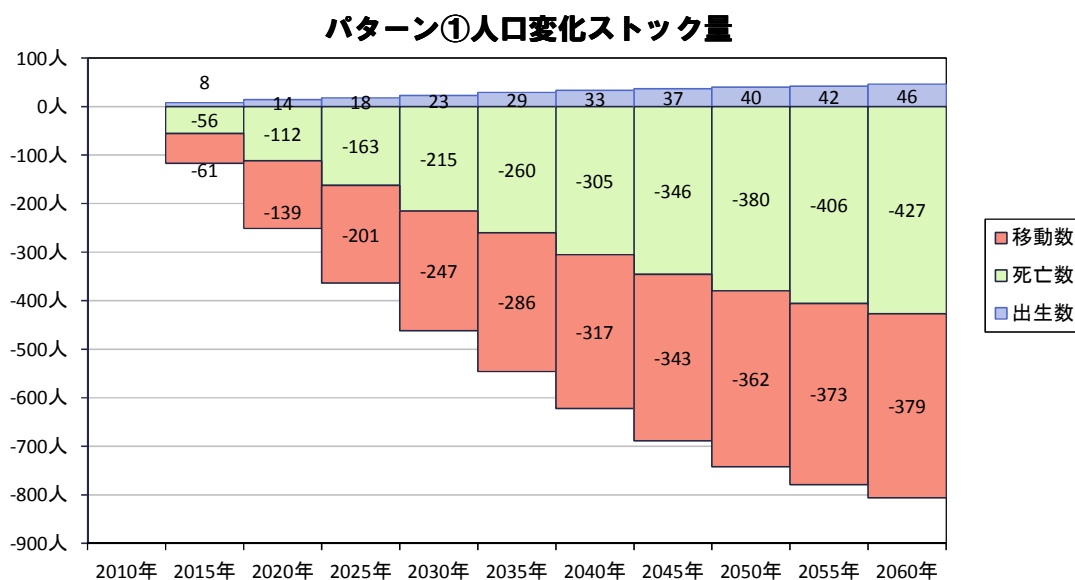
○通勤・通学

- ・通勤・通学の状況については、村内常住の就業者・通学者 651 人のうち、村内に通勤・通学している人が 593（91.1%）で、村外へは 1 割以下となっています。
- ・村外の通勤・通学先として最も多いのは名寄市 41 人（6.3%）となっています。
- ・他市町村在住の就業者・通学者 86 についてみると、美深町から通勤・通学している人が 26 人、次いで中川町 20 人となっています。

＜課 題 1＞

○人口減少への対応

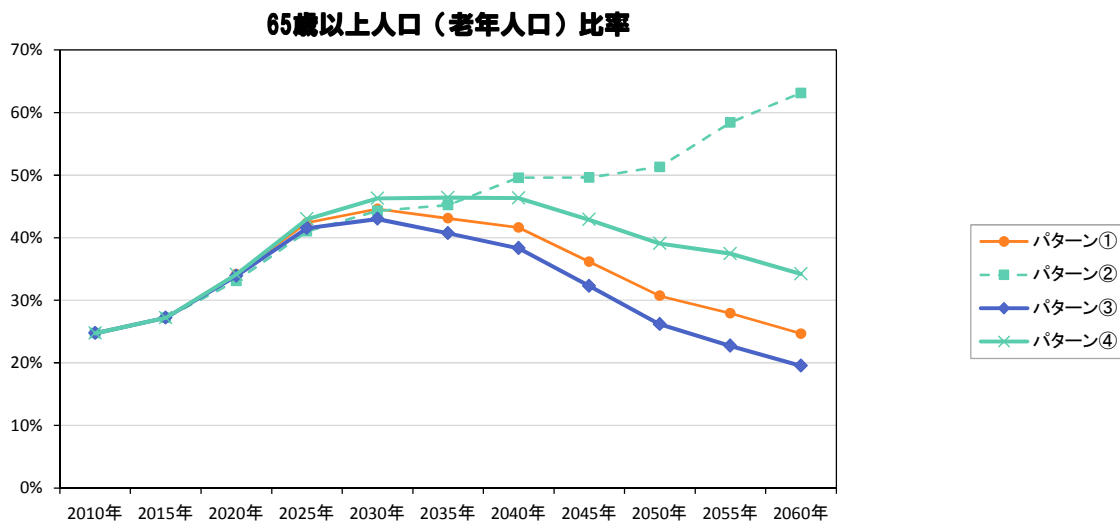
- 今後の趨勢人口として、2010年の995人から2060年には240人程度へと減少することが見込まれますが、その減少の多くは死亡によるものです。
- 下図に示すとおり、2010年から2060年までの50年間で計400人以上の死亡が見込まれています。



- 高齢化した人口構造を背景に、死亡数を大きく減少させることは困難と考えられるため、今後の人口政策としては、出生数の増加及び転入促進・転出抑制が重要になってきます。

○高齢化への対応

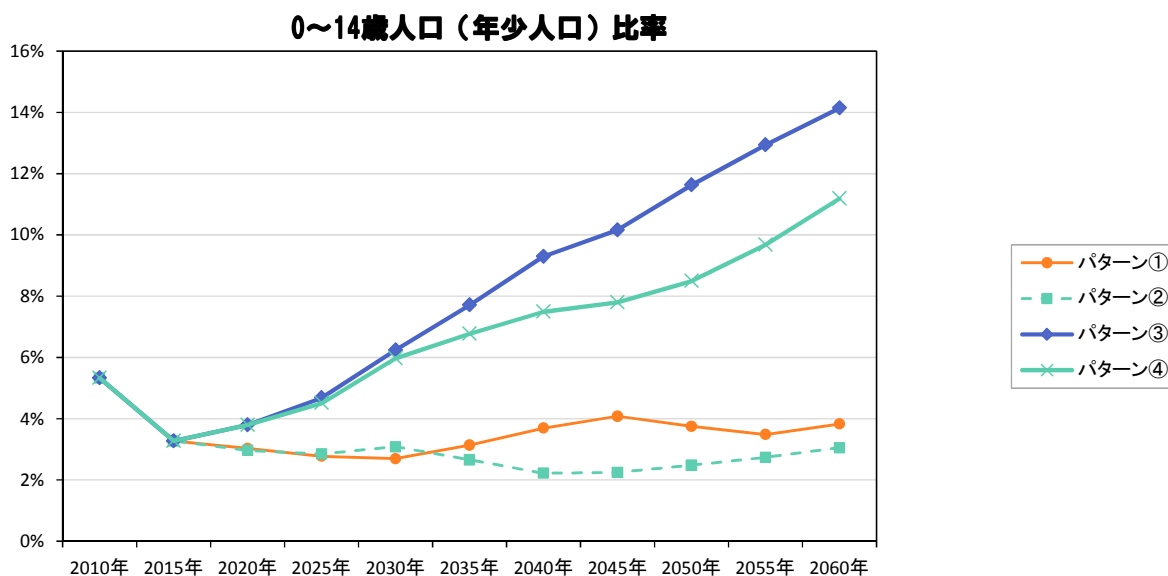
- 趨勢人口であるパターン①をみると、高齢化率が減少していますが、これは総人口が大きく減少する一方で、高校生は今後も一定数確保されると想定されていることが要因です。



- パターン③は今後移動が均衡するという想定での推計であり、若年層の人口が大きく減少しないため、高齢化率も大きくは上昇していません。
- パターン②では、現状の高齢化の傾向がさらに進むこととなり、2060年には60%程度となっています。

○少子化への対応

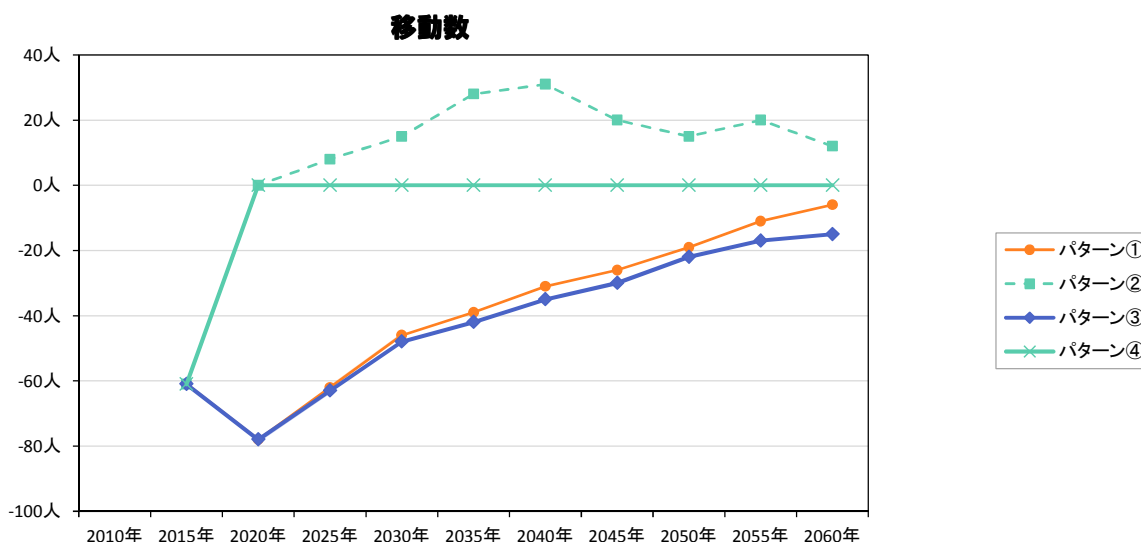
- パターン①では、合計特殊出生率が上昇しないため、年少人口比率が低くなっています。
- パターン②では、2030年には「2.07」まで合計特殊出生率が上昇することを想定していますが、子どもを産む若い層の人口が減少するため、出生数は増加せず、年少人口比率も低くなっています。
- パターン③・④では、合計特殊出生率が最も高くなることを想定したもので（2030年に「2.1」）、子どもの数がこれらの推計の中では最も多く、それに比例して年少人口比率も高まっています。



- 今後の人口減少を抑制していくためには、出生数の増加は大きな課題であり、子どもを産む若い層の人口をいかに確保していくかが課題となります。

○移動数への対応

- パターン①・パターン③では、移動数が徐々に「0」に近づきますが、2060年においても「マイナス」の状態が続いています。
- パターン②では、徐々に純定住率が高まり 2060年には「1」になることを想定しており、移動数は2025年以降「プラス」を維持しています。



- 本村では、人口規模が小さいことから、出生によって人口の大きな増加を期待することは難しく、転入促進・転出抑制により、移動数を「プラス」にすることが、人口減少の抑制の観点からも、特に重要となります。
- そのためには、おといねっぴ美術工芸高等学校卒業生の村への定住促進、また、Iターン者等の新たな住民の移住促進等が課題となります。

＜課 題2＞

○人口減少による地域への影響

- 音威子府村は北海道で人口が一番少ない村ですが、おといねっぴ美術工芸高等学校という特殊性により、一定数の若者を常に確保できるという利点を有しています。しかしながら、人口減少は今後も続くことが想定されています。
- 人口規模の大きな縮小は、地域における消費活動を減退させるだけでなく、労働に従事する人口も減少することから、結果として地域における経済規模が縮小し、日常生活における様々なサービス・利便性が低下して、さらに人口の転出を促すという悪循環に入り込むことが危惧されます。
- また、人口の問題は規模だけの問題ではなく、人口の年齢構造の問題でもあり、このまま少子高齢化の傾向が続くことは、高齢介護等をはじめとするサービス需要の問題だけではなく、長期的に安定的な人口規模を維持するという観点からも少子高齢化を抑制し、人口構造を健全化する必要があります。

Ⅲ. 人口の将来展望

1. 将来を見据えた人口問題に対する取り組みの考え方

○2010年の総人口である995人から、今後の趨勢人口として2060年には240人程度にまで減少することが見込まれます。

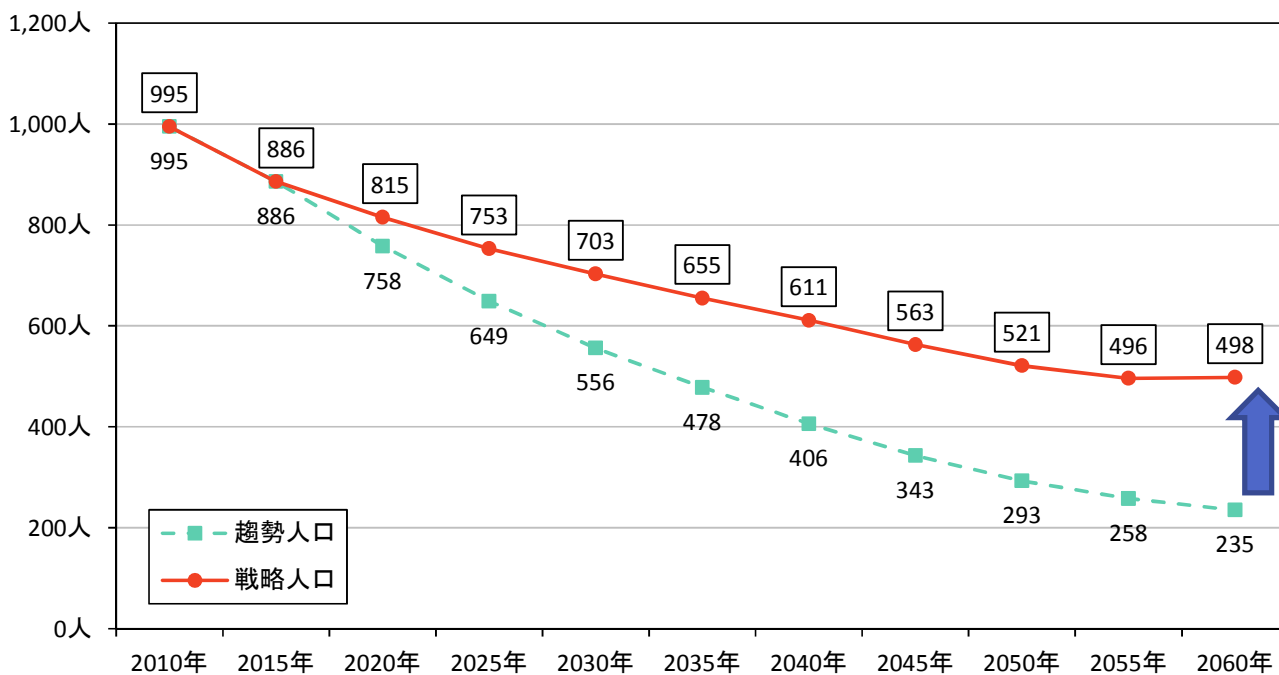
○本村では、こうした趨勢人口や人口推計のシミュレーション、さらに、これまでの人口動向の特性を踏まえた上で、合計特殊出生率の上昇並びに純移動率の上昇を図ることにより、長期的視点から人口減少の抑制に取り組むこととし、その目標としてめざすべき将来の戦略人口を設定します。

2. めざすべき将来の戦略人口と展望

(1) 戦略人口

○少子化・高齢化、転出超過といった本村の人口問題に対して、長期的視点から取り組むことにより、2040年において610人程度、2060年において500人程度の人口規模をめざします。

戦略人口



(単位：人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	995	886	758	649	556	478	406	343	293	258	235
戦略人口	995	886	815	753	703	655	611	563	521	496	498
戦略効果 (戦略人口-趨勢人口)			57	104	147	177	205	220	228	238	263

○戦略人口における合計特殊出生率及び社会動態については、次のように仮定しています。

[合計特殊出生率]

- ・2025年に1.80、2030年に2.07まで上昇し、以降は2.07を維持。

	西 暦(年)										
	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
合計特殊出生率	—	—	1.50	1.80	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07

[社会動態]

- ・2060年に社会増に転換。

(単位：人)

	西 暦(年)										
	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
社会動態	—	-61	-27	-22	-13	-10	-5	-9	-9	-3	15

[自然動態(参考)]

- ・戦略人口の自然動態(出生数、死亡者数)は以下のとおりです。

(単位：人)

	西 暦(年)										
	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
出生数	—	8	12	11	11	10	10	11	13	16	20
死亡者数	—	-56	-56	-51	-48	-48	-49	-50	-46	-38	-33
自然動態 (出生+死亡)	—	-48	-44	-40	-37	-38	-39	-39	-33	-22	-13

○なお、戦略人口と2060年に同程度の人口規模となる前述のシミュレーション「パターン②」との大きな違いとして、人口構造が挙げられます。「パターン②」においては、2060年の年少人口比率が3%程度、老年人口比率が63%程度となっており、人口構造においても、現状より深刻な状況となることが想定されています。

○戦略人口においては、人口規模の減少を抑制するとともに、若い世代や子どもの数を増やし、高齢化に歯止めをかけることで定性的な人口構造をめざす今後の取り組みを想定し、推計を行っています。

(2) 戦略人口に基づく人口構造の展望

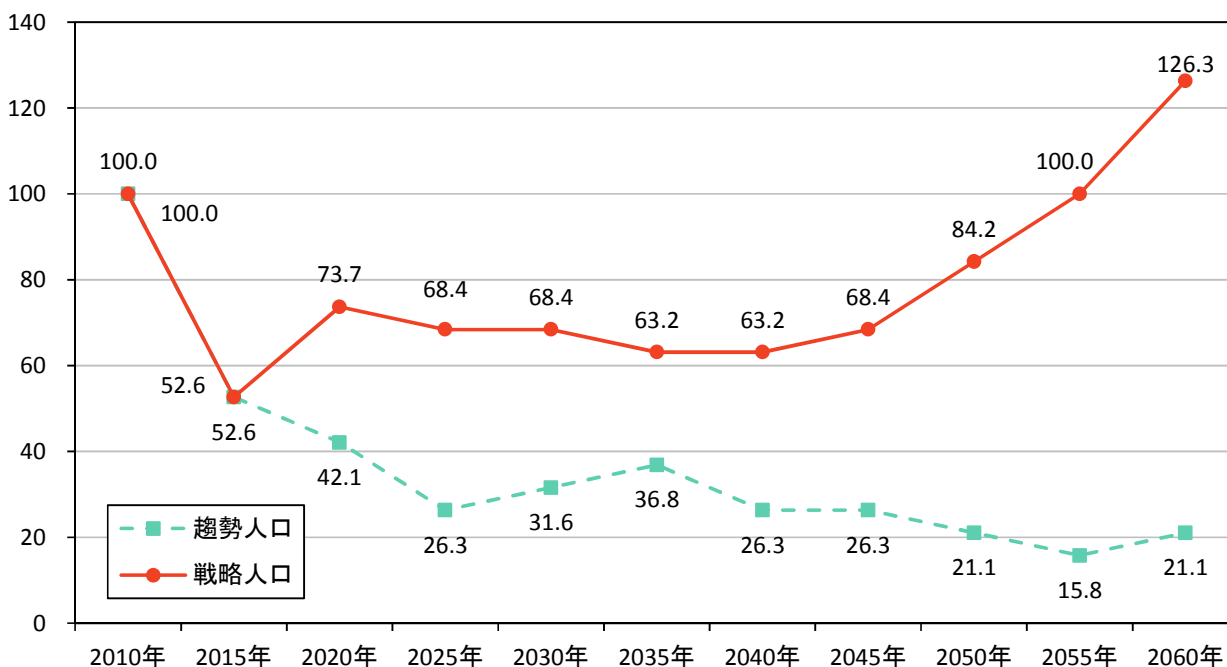
①年齢構造の視点からの展望

[未就学の子ども数]

○様々な子育て支援策は、戦略人口達成の前提となる合計特殊出生率の上昇を実現するための手段の一つであるとともに、その結果として出現する未就学の子ども数に応じた対応施策でもあります。

○未就学の子ども数は、2045年までは現状の60~70%程度以上を維持、以降は大きく増加することから、その手段であり対応策でもある子育て支援へのニーズが大きく縮小することは想定しづらく、今後も少子化対策の観点からの取り組みが重要になってきます。

未就学の子ども数の変化指数（2010=100）



(単位：人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	19	10	8	5	6	7	5	5	4	3	4
戦略人口	19	10	14	13	13	12	12	13	16	19	24

変化指数	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	100.0	52.6	42.1	26.3	31.6	36.8	26.3	26.3	21.1	15.8	21.1
戦略人口	100.0	52.6	73.7	68.4	68.4	63.2	63.2	68.4	84.2	100.0	126.3

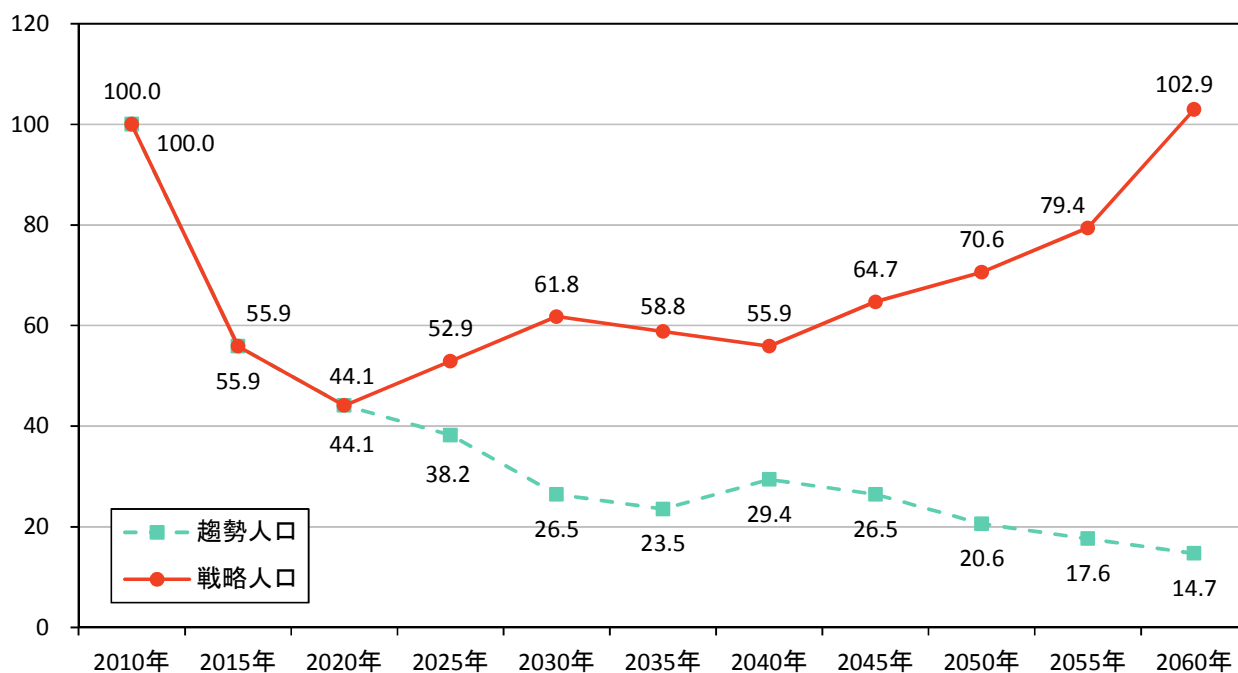
構成比	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	1.9%	1.1%	1.1%	0.8%	1.1%	1.5%	1.2%	1.5%	1.4%	1.2%	1.7%
戦略人口	1.9%	1.1%	1.7%	1.7%	1.8%	1.8%	2.0%	2.3%	3.1%	3.8%	4.8%

[小・中学生数]

○小・中学生数については、2020年までに現状の40%程度の水準まで縮小し、その後は少子化対策の効果等によりゆるやかに増加し、2060年には現状と同程度の水準を達成するものと想定されます。

○今後は、教育の充実を前提にしつつも、小・中・高等学校施設の統廃合等も視野に入れた検討・対応が求められそうです。

小・中学生数の変化指数（2010=100）



(単位：人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	34	19	15	13	9	8	10	9	7	6	5
戦略人口	34	19	15	18	21	20	19	22	24	27	35

変化指数	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	100.0	55.9	44.1	38.2	26.5	23.5	29.4	26.5	20.6	17.6	14.7
戦略人口	100.0	55.9	44.1	52.9	61.8	58.8	55.9	64.7	70.6	79.4	102.9

構成比	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	3.4%	2.1%	2.0%	2.0%	1.6%	1.7%	2.5%	2.6%	2.4%	2.3%	2.1%
戦略人口	3.4%	2.1%	1.8%	2.4%	3.0%	3.1%	3.1%	3.9%	4.6%	5.4%	7.0%

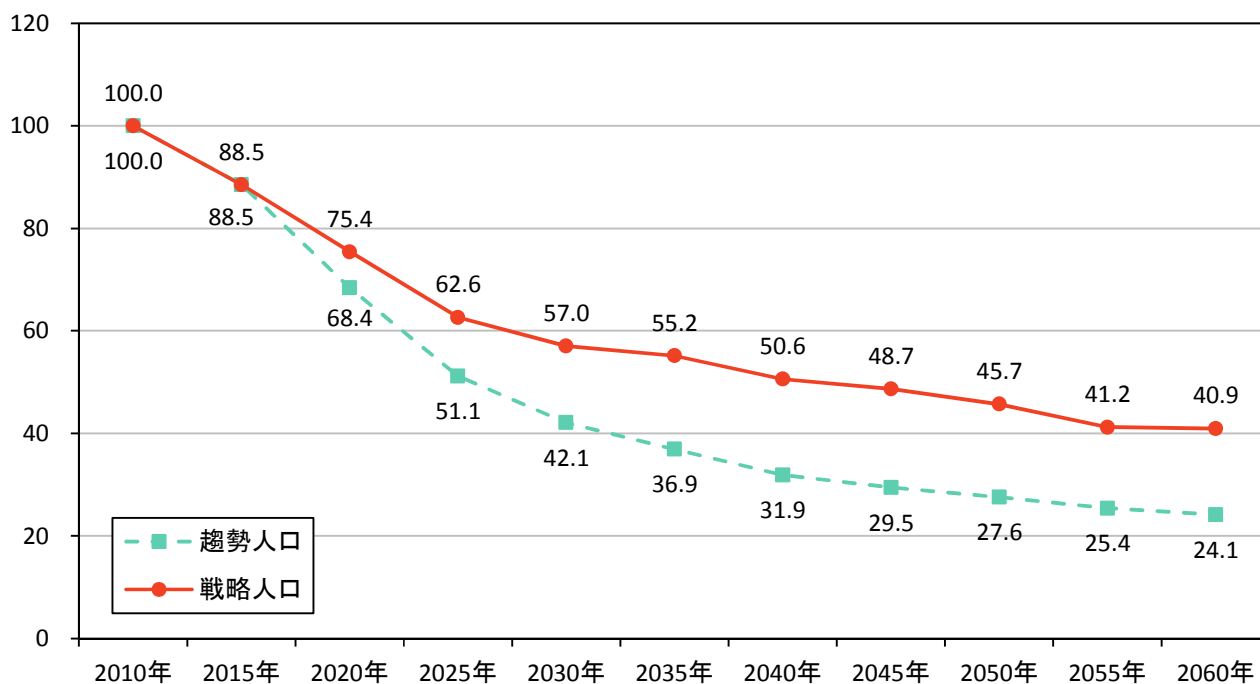
[生産年齢人口]

○消費面、生産面からその多くを担うことが期待される生産年齢人口については、人口規模の縮小に伴い、長期的にも縮小傾向で推移し、2060年には現状の40%程度になる見通しです。

○人口構造の観点からは、2010年の69.9%から2060年には57.2%程度にまで減少するものと想定されます。

○今後は、地域における雇用の創出を図るとともに、経済規模の縮小を抑制するために、生産性の向上についても力を入れていくことが重要です。

生産年齢人口の変化指数（2010=100）



(単位：人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	696	616	476	356	293	257	222	205	192	177	168
戦略人口	696	616	525	436	397	384	352	339	318	287	285

変化指数	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	100.0	88.5	68.4	51.1	42.1	36.9	31.9	29.5	27.6	25.4	24.1
戦略人口	100.0	88.5	75.4	62.6	57.0	55.2	50.6	48.7	45.7	41.2	40.9

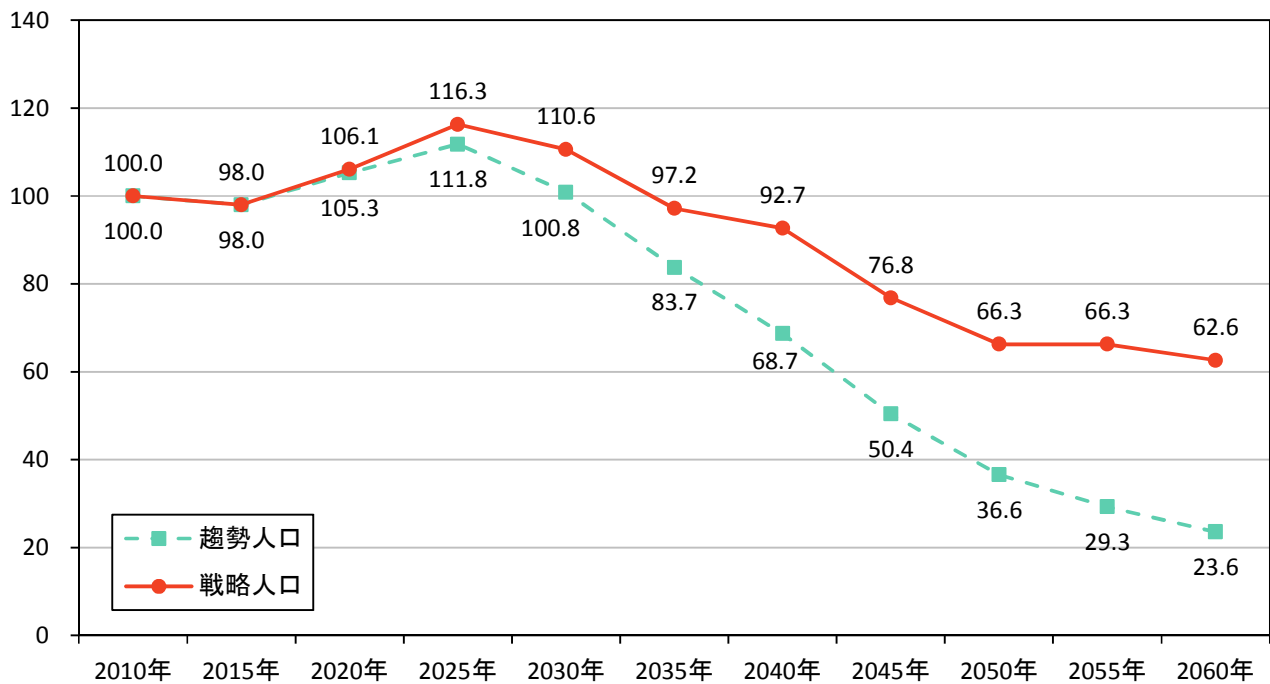
構成比	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	69.9%	69.5%	62.8%	54.9%	52.7%	53.8%	54.7%	59.8%	65.5%	68.6%	71.5%
戦略人口	69.9%	69.5%	64.4%	57.9%	56.5%	58.6%	57.6%	60.2%	61.0%	57.9%	57.2%

[高齢者人口]

○高齢者人口は、2020～2025年をピークに減少過程に入ることが想定されますが、人口構造における高齢化率については2010年の24.7%から上昇傾向で推移し、2025～2030年に39%程度でピークを迎えるものと想定されます。

○既に団塊の世代は高齢者に含まれており、こうした状況の中で比較的元気な高齢者に一人でも多く活躍していただくことが、人口減少期における村の活性化には不可欠と考えられます。

高齢者人口の変化指数（2010=100）



（単位：人）

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	246	241	259	275	248	206	169	124	90	72	58
戦略人口	246	241	261	286	272	239	228	189	163	163	154

変化指数	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	100.0	98.0	105.3	111.8	100.8	83.7	68.7	50.4	36.6	29.3	23.6
戦略人口	100.0	98.0	106.1	116.3	110.6	97.2	92.7	76.8	66.3	66.3	62.6

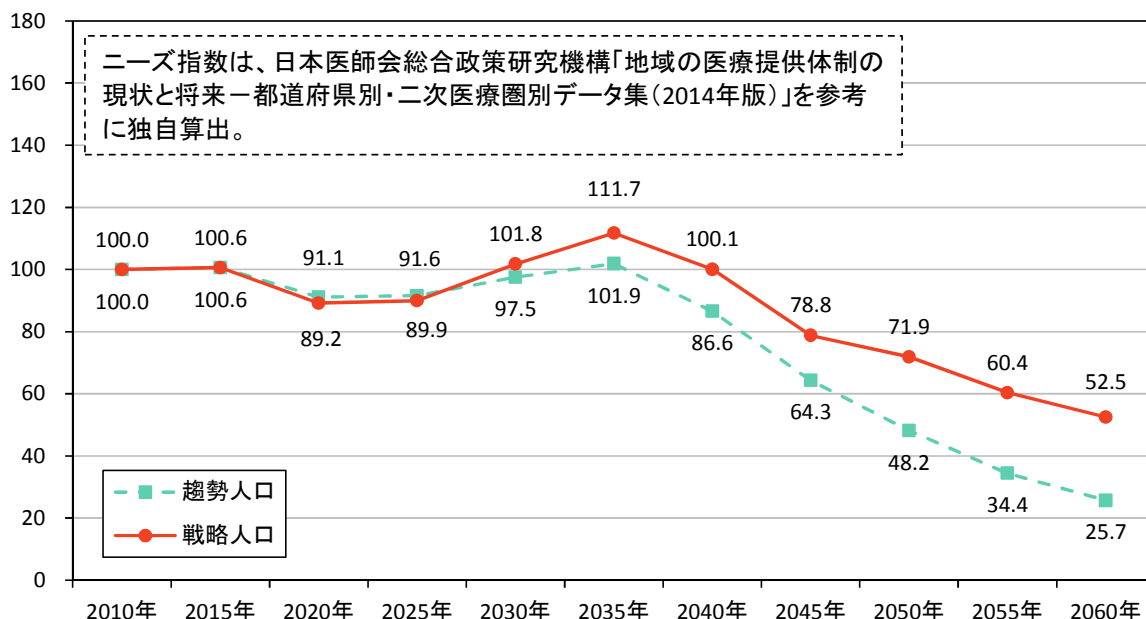
構成比	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	24.7%	27.2%	34.2%	42.4%	44.6%	43.1%	41.6%	36.2%	30.7%	27.9%	24.7%
戦略人口	24.7%	27.2%	32.0%	38.0%	38.7%	36.5%	37.3%	33.6%	31.3%	32.9%	30.9%

②介護・医療ニーズの視点からの展望

[介護ニーズ]

- 介護ニーズについては、当面の高齢者人口比率の増加、並びに高齢者の高齢化等を背景に、今後も2040年までは現状程度以上のニーズ量が見込まれます。
- したがって、介護サービスについては、今後も長期的観点から施設・サービスの整備・充実を図っていく必要がありそうです。

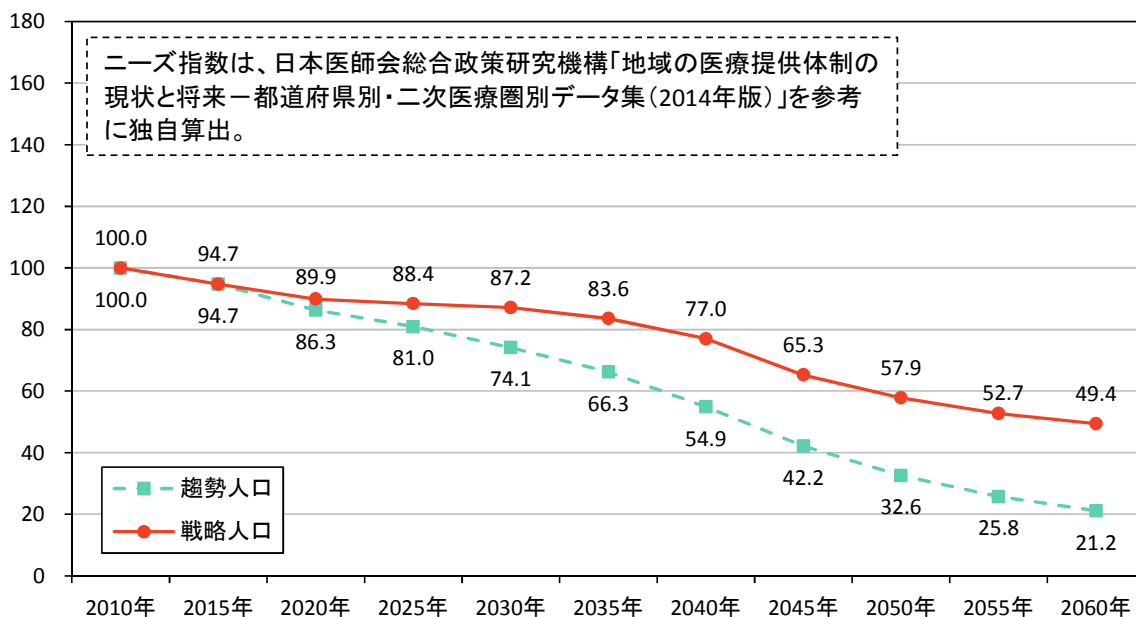
介護ニーズ（2010=100）



[医療ニーズ]

- 医療ニーズについては、現状のニーズからの増大は見込まれず、縮小していくことが想定されます。

医療ニーズ（2010=100）



(3) まとめとしての将来展望

[音威子府村の将来展望]



[将来展望を実現するために]

- 戦略人口の達成に向けては、本村における道内外からの新しい“人の流れ”を創出するとともに、結婚や出産の希望の実現の前提となる生活基盤としての“雇用の場”の創出、さらに、“人口減少時代に対応した地域社会”をつくり出すための取り組みを進める必要があります。
- こうした取り組みを通じて、本村の人口の減少を可能な限り抑えることにより、地域における消費の落ち込みを抑制し、地域経済・地域社会に対する人口減少の影響を最小限に留めていくことが重要となります。
- そのためには、本村の最大の強みであり、他市町村にはない特徴である「**村立おといねっふ美術工芸高等学校**」の振興と交流の拡大、また、その卒業生を中心とした若い世代の移住・定住の促進に加え、豊かな自然や多様な観光施設等の活用、さらなる地域資源の発見・整備・ブラッシュアップや、地域の活力を生み出すための取り組みも重要になってきます。
- こうした地方創生の取り組みを進めるに際しては、自らの暮らす地域社会の問題を自らのこととして考え、自ら行動する主体的なプレイヤー（村民・教育関係者・地域団体・企業・行政等）の存在が不可欠です。
- 音威子府村に暮らす・働く仲間として、音威子府村の将来の姿をともに描き、地域の豊かな資源と安心・安全で快適な暮らしを次の世代へと受け継いでいくために、戦略人口を達成するための平成27年度から平成31年度までの5年間の取り組みを「音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）」として明らかにし、その着実な遂行を図っていくこととします。